

平成13年度 農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書

- 清武町・県営農地保全整備事業船引地区
(上猪ノ原遺跡)
- 田野町・県営農地保全整備事業元野地区
(本野原遺跡)
- 田野町・県営農地保全整備事業七野八重地区
(片井野第1遺跡)
- 川南町・国営尾鈴土地改良事業
(長岡原・銀座・藏座村・山本・赤石・住吉B遺跡)
- 宮崎市・国営大淀川左岸農業水利事業
- 都城市・農用地総合整備事業
(豊満大谷・宇都第3遺跡)
- 都城市・県営農地保全整備事業横市地区
(星原遺跡)

平成14年3月

宮崎県教育委員会

平成13年度 農業基盤整備事業に伴う発掘調査概要報告書

清武町・県営農地保全整備事業船引地区
(上猪ノ原遺跡)

田野町・県営農地保全整備事業元野地区
(本野原遺跡)

田野町・県営農地保全整備事業七野八重地区
(片井野第1遺跡)

川南町・国営尾鈴土地改良事業
(長岡原・銀座・藏座村・山本・赤石・住吉B遺跡)

宮崎市・国営大淀川左岸農業水利事業

都城市・農用地総合整備事業
(豊満大谷・宇都第3遺跡)

都城市・県営農地保全整備事業横市地区
(星原遺跡)

平成14年3月

宮崎県教育委員会

例 言

1. 本書は、宮崎県教育委員会が平成13年度に国庫補助金を受けて実施した、農業基盤整備事業に伴う発掘調査の概要報告書である。
2. 調査は、県文化課主査飯田博之、同主任主事竹井真知子、同主任主事松林豊樹が担当した。調査にあたっては、関係市町村教育委員会及び同農政部局、各農林振興局、各土地改良区、緑資源公団、九州農政局宮崎農業水利事務所、尾鈴農業水利事業建設所の協力を得た。
3. 本書の執筆は、各担当者が行った。
4. 出土遺物は、関係市町村教育委員会および県埋蔵文化財センターで保管している。

目 次

1. はじめに	1
2. 県営農地保全整備事業船引地区 (上猪ノ原遺跡)	1
3. 県営農地保全整備事業元野地区 (本野原遺跡)	9
4. 県営農地保全整備事業七野八重地区 (片井野第1遺跡)	17
5. 国営尾鈴土地改良事業	20
(1) 霧島・八方原・平下支線水路 (長岡原・銀座・藏座村・山本遺跡)	21
(2) 切原ダム工事用道路 (住吉B遺跡)	23
(3) 鶴戸ノ本ファームポンド (赤石遺跡)	27
6. 国営大淀川左岸農業水利事業	29
7. 農用地総合整備事業	31
(1) 豊満大谷遺跡	31
(2) 宇都第3遺跡	34
8. 県営農地保全整備事業横市地区 (星原遺跡)	38
表 平成12年度 試掘・確認調査一覧	41

1. はじめに

宮崎県内では、各農林振興局管内において、多くの農業基盤整備事業が行われている。

県教育庁文化課では、農業関連開発事業に対する埋蔵文化財の保護をはかるため、その調整の一環として、平成13年度及び14年度以降の事業対象地に関する分布調査及び試掘・確認調査を実施した。

本報告は、平成13年度に試掘・確認調査を実施した12遺跡についてその概要を報告するものである。

2. 県営農地保全整備事業船引地区（上猪原遺跡）

船引地区遺跡は、宮崎郡清武町大字船引に所在する。本地区では、継続的に県営特殊農地保全整備事業が実施されており、同事業に伴う発掘調査が、平成5年度から清武町教育委員会によって行われている。

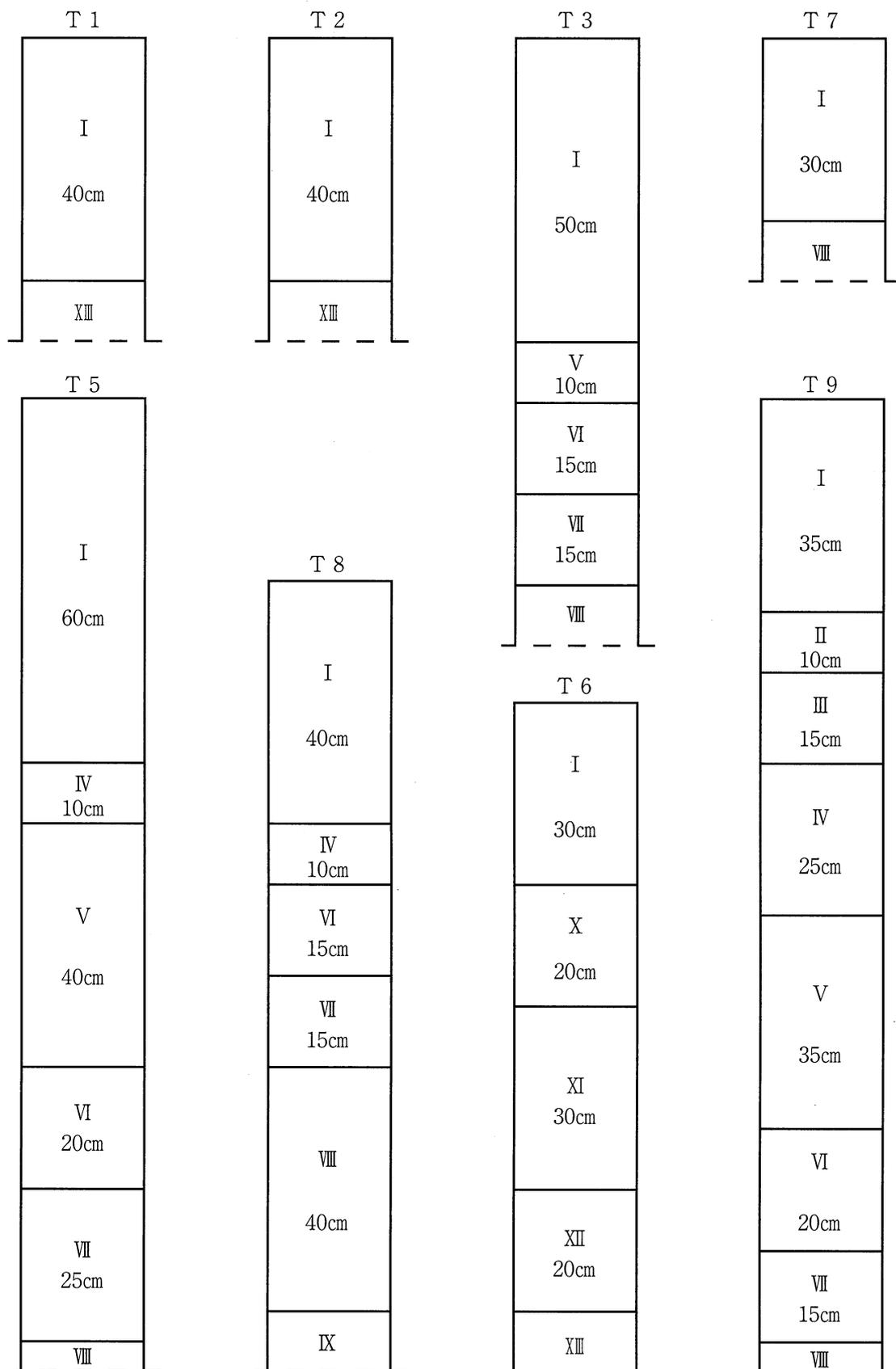
本年度の試掘・確認調査は、平成13年度及び14年度以降の事業予定地を対象として、平成13年4月19日～4月25日、6月7日～6月13日、8月16日～8月23日までの3回実施しており、4回目を平成14年3月以降に行う予定である。

I	現耕作土	25～60cm	
II	黒色土	10～60cm	
III	黒褐色土	5～15cm	高原スコリアを多く含む
IV	黒色土	10～25cm	
V	アカホヤ火山灰	5～45cm	上面で柱穴状遺構検出
VI	黒褐色土	10～20cm	縄文時代早期包含層
VII	暗褐色土	10～25cm	縄文時代早期包含層
VIII	褐色土	10～50cm	
IX	小林軽石	10～40cm	
X	黄褐色土	5～30cm	旧石器時代遺物包含層
XI	黄褐色土	30cm	
XII	浅黄褐色土	30cm	
XIII	シラス火山灰		

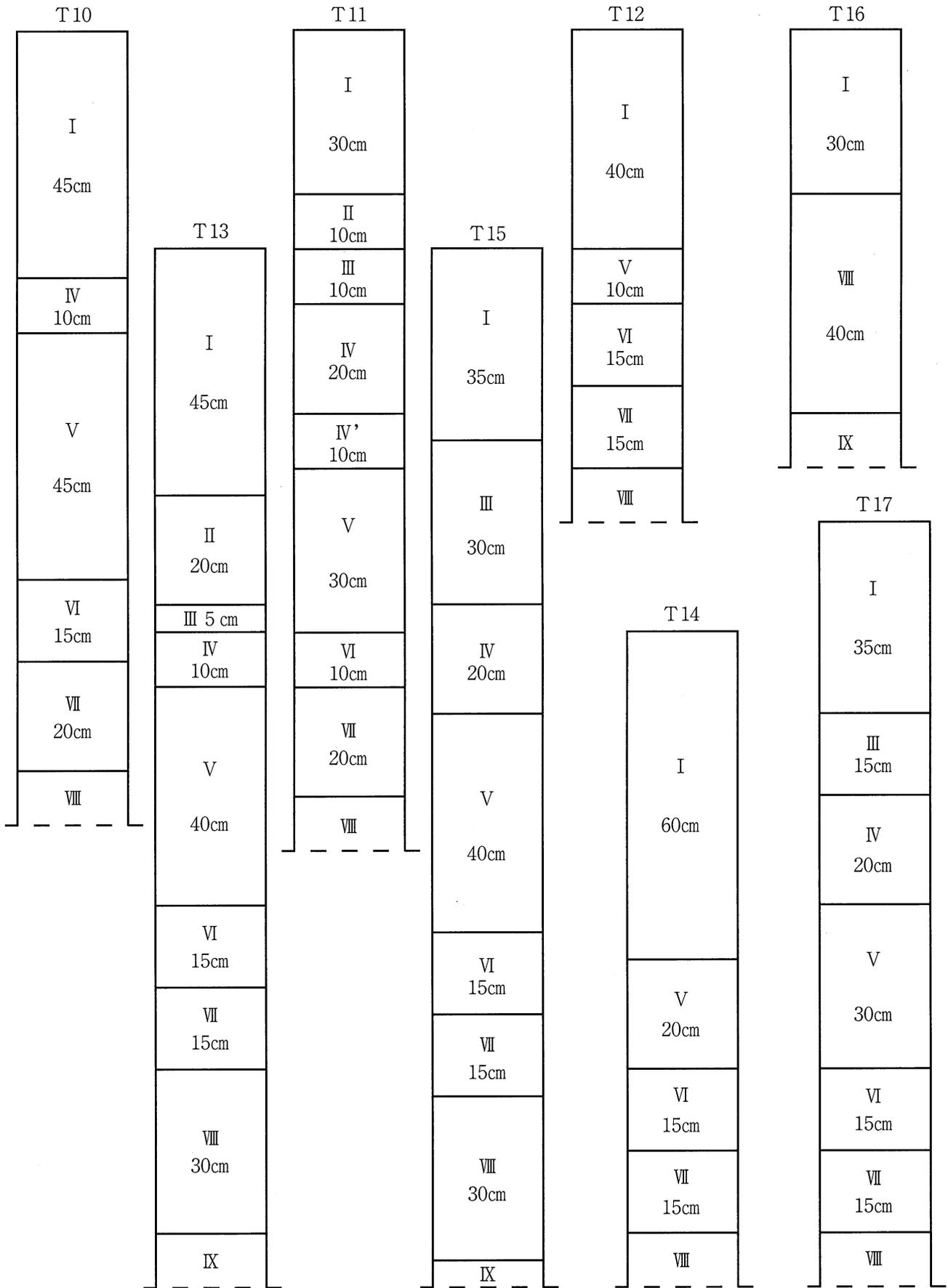
船引地区遺跡群が所在する台地は、これまでの調査結果により、中央部はやや谷状の地形を呈し、その東西の緩斜面上に遺跡が立地することが明らかとなっていた。今回の試掘・確認調査地点は、この台地南西側縁辺部を中心とした範囲であることから、遺跡が遺存する可能性が高いと予想された。しかし、耕作等の影響から削平を受けている部分も多く、全体としては遺構・遺物の密度は高くなかった。



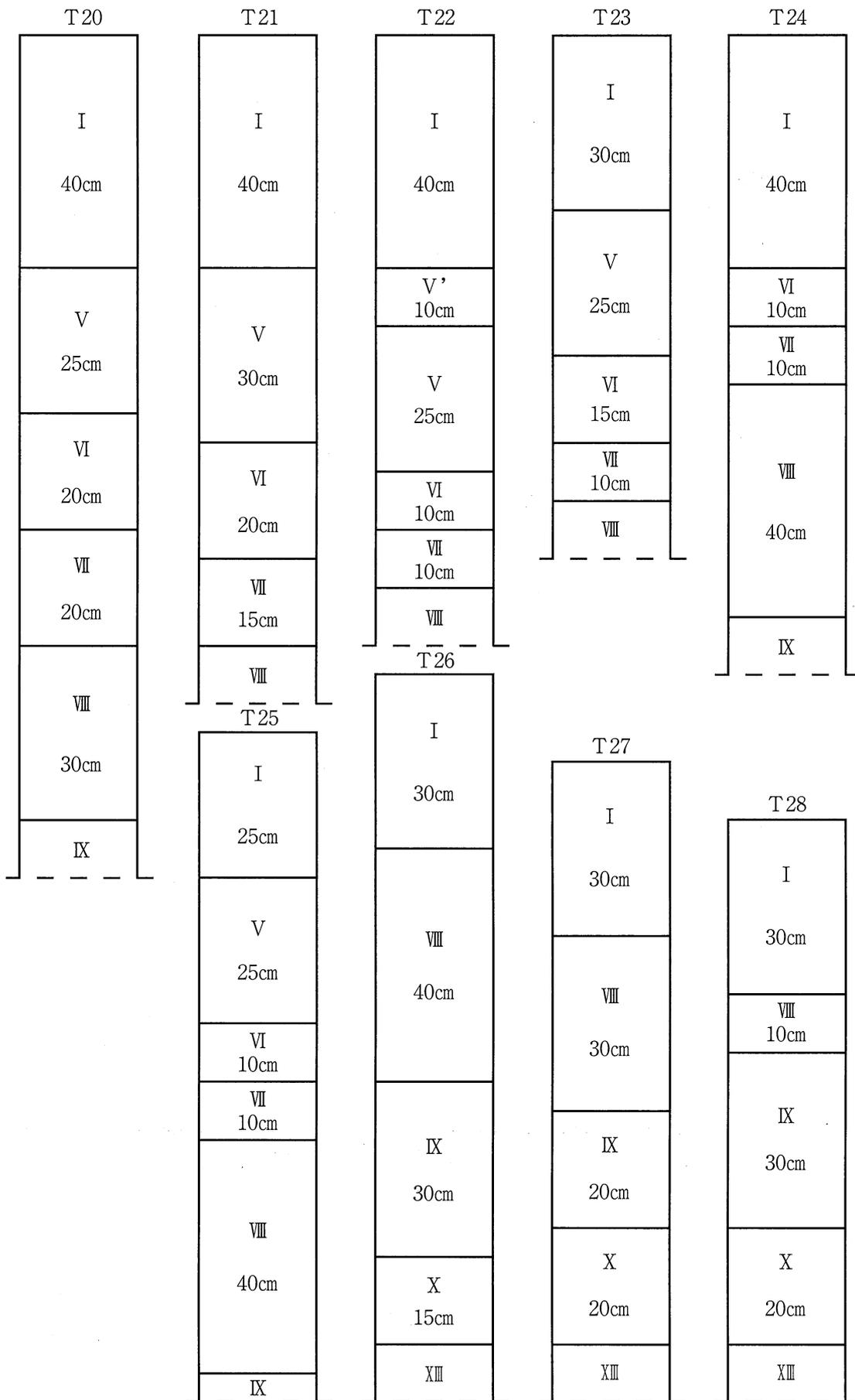
第2図 船引地区トレンチ配置図



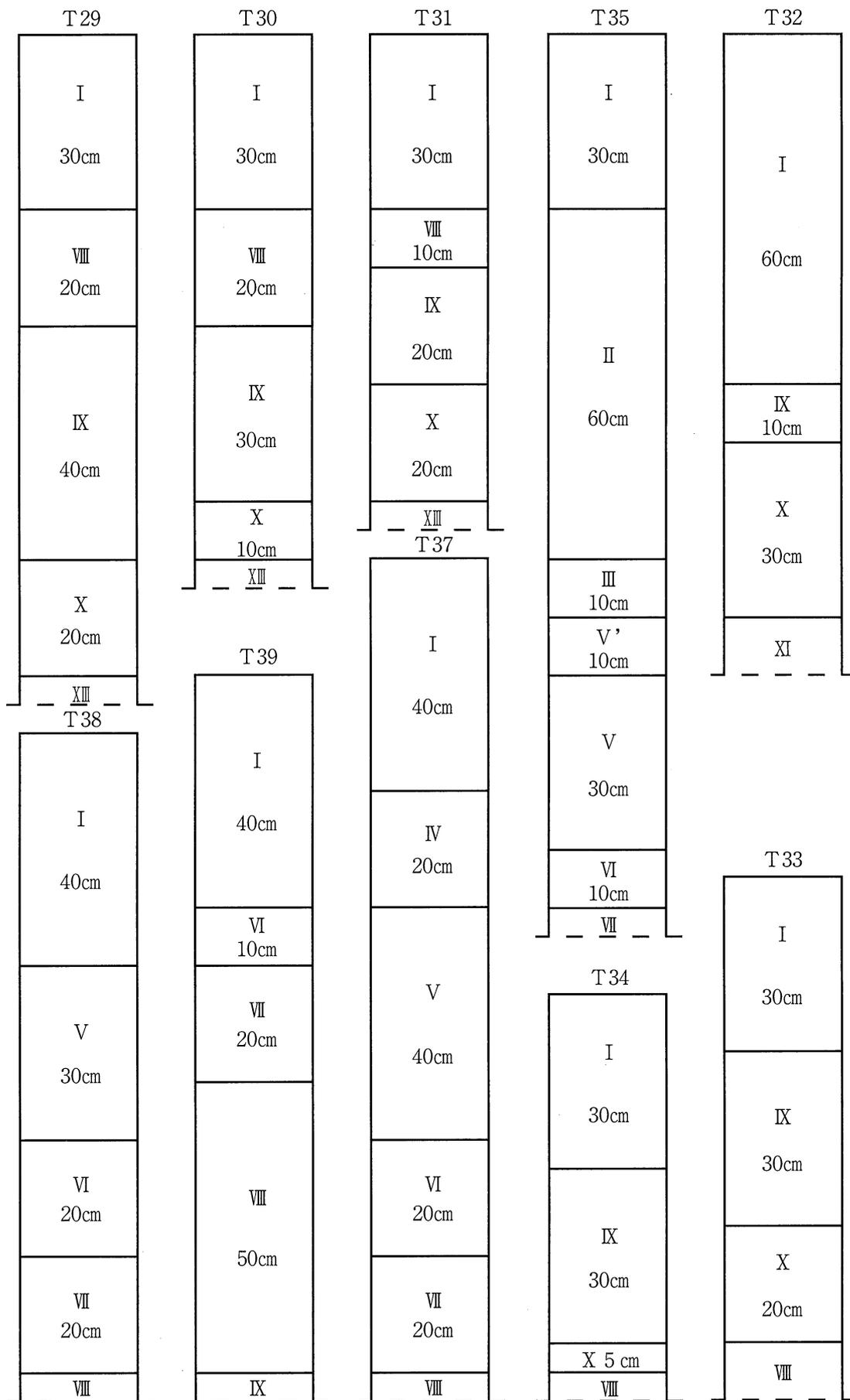
第3図 船引地区トレンチ土層柱状図 (1)



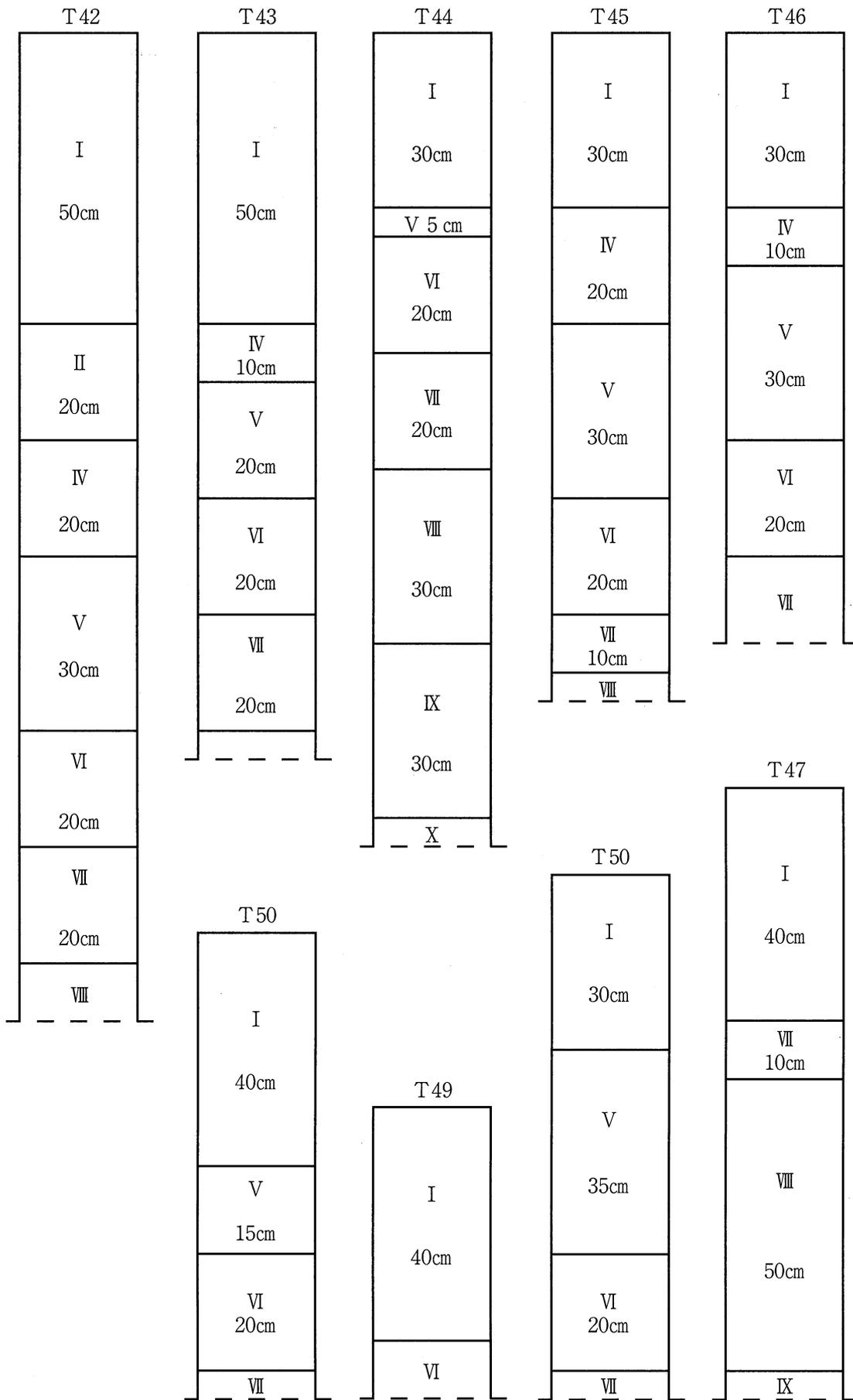
第4図 船引地区トレンチ土層柱状図 (2)



第5図 船引地区トレンチ土層柱状図 (3)



第6図 船引地区トレンチ土層柱状図 (4)



第7図 船引地区トレンチ土層柱状図 (5)

3. 県営農地保全整備事業元野地区（本野原遺跡）

本野原遺跡は、宮崎郡田野町大字元野に所在する。元野地区では、平成4年度から県営特殊農地保全整備事業が実施されており、同事業に伴う発掘調査が、平成4年度から田野町教育委員会によって行われている。

本年度の試掘・確認調査の対象地は、平成13年度に田野町が実施している発掘調査及び確認調査範囲の西側にあたる部分で、平成14年度以降の事業対象地である。また、同対象地は、平成6年度に県教育委員会が試掘・確認調査を実施したほか、国営大淀川右岸農業水利事業に伴い発掘調査も行われていたことから、これらの調査箇所と重複しない地点を選んでトレンチを設定した（第9図）。

今回の確認調査は、現在、田野町が実施している発掘調査によって100軒を超える竪穴住居や多数の土坑、柱穴状遺構等から構成される縄文時代後期を中心とした大規模な環状集落が検出されたことを受けて、その広がり把握することを目的としている。従って、縄文時代後・晩期の遺構が検出できる層位が遺存していたトレンチでは、基本的にⅦ層（アカホヤ火山灰）以下については確認していない。

調査対象地は現在も耕作されているため、地権者や耕作者、関係諸機関の協力を得ながら、大根の収穫から葉たばこの作付けまでの間隙を縫って、平成14年1月8日～1月28日の間に調査を行った。

今回試掘・確認調査を実施した地点において、各トレンチの状況から想定される基本土層は、以下のとおりである。

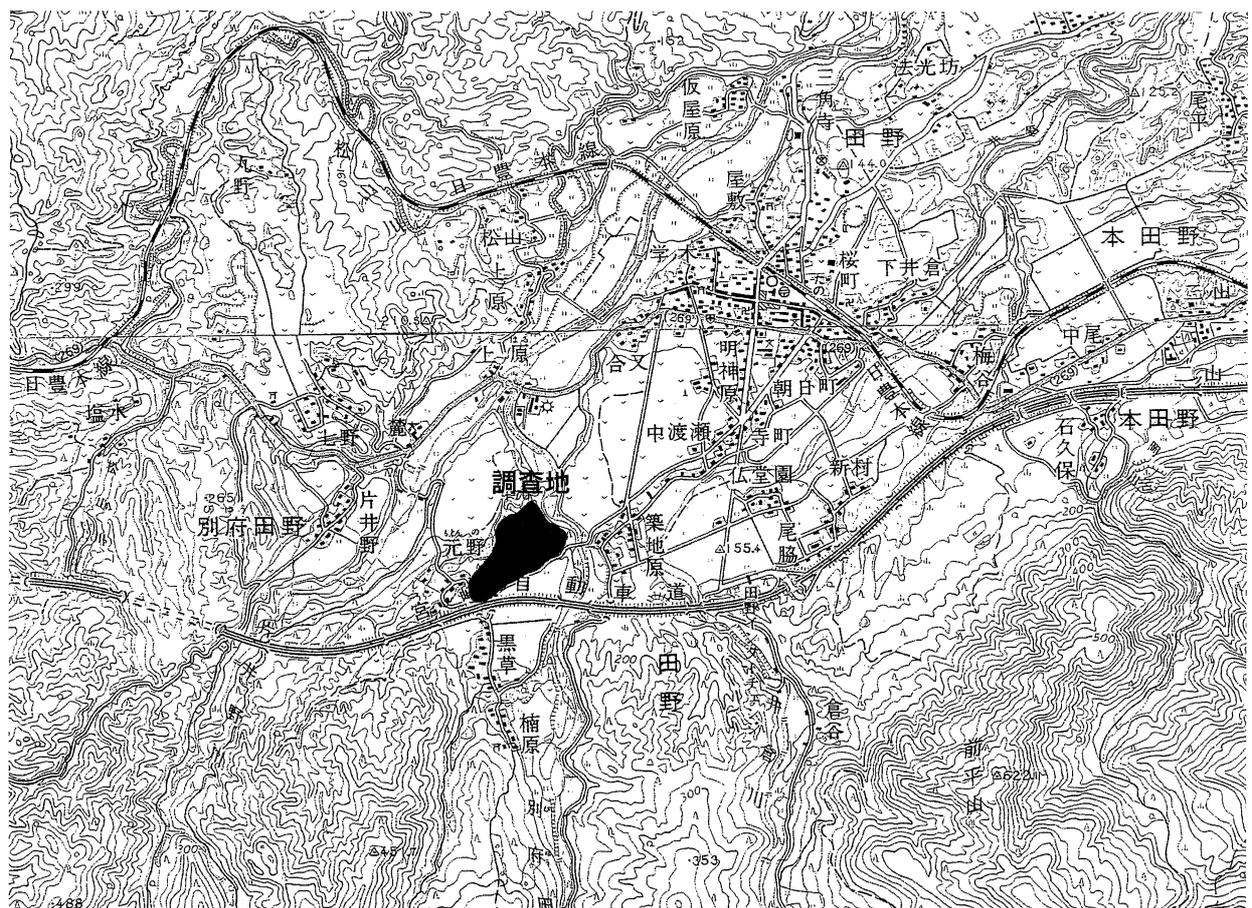
I	現耕作土	20～45cm	
II	黒色土	10cm	
	(文明白ボラ) 明確な層として確認できない		
III	黒色土	10cm	高原スコリアを多く含む
IV	黒褐色土	25cm	縄文時代後期・晩期包含層
V	褐色～暗褐色土	10～20cm	縄文時代後期・晩期包含層
VI	暗褐色～黒褐色土	5～50cm	縄文時代後期・晩期包含層
VII	アカホヤ火山灰	5cm以上	
VIII	黒褐色～黒色土	20cm以上	縄文時代早期早期包含層
IX	黒褐色～黒色土	10～30cm	縄文時代早期早期包含層
X	暗褐色土	5～30cm	縄文時代早期早期包含層

総数38ヶ所のトレンチを設定して調査を進めた結果、25ヶ所でⅦ層（アカホヤ火山灰）の遺存を確認した。全てのトレンチで縄文時代後・晩期の遺物が検出されたが、本来の包含層が滅失しているところでは、表土からの出土である。また、T12では、縄文時代早期のものと思われる焼けた礫が検出された。

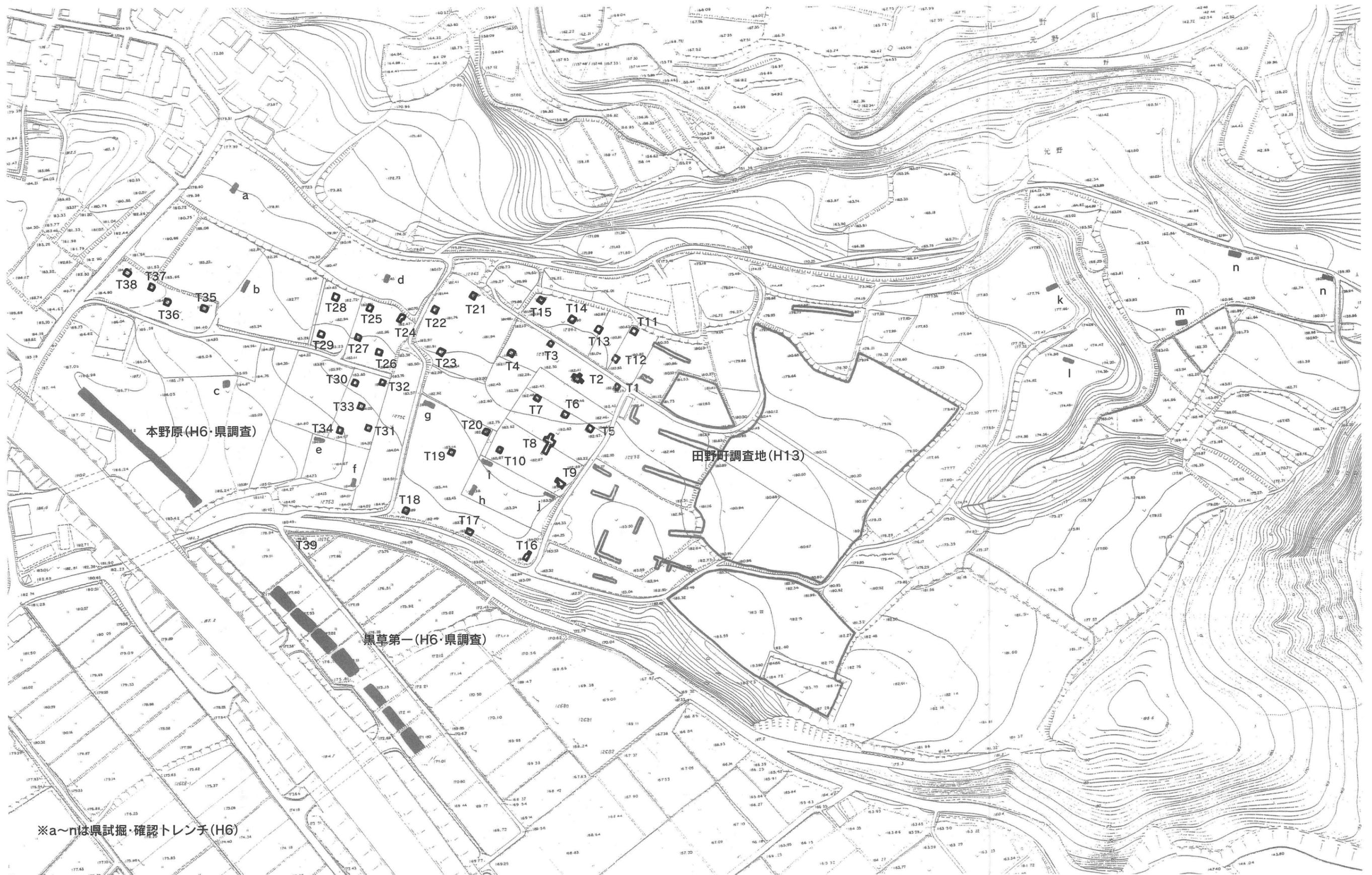
縄文時代後・晩期の遺構が検出されたトレンチは、T1・2・6～9・11・13・14～16・18・20・21・24・25・27・28・35～38である。この内、大半は柱穴状遺構が複数検出されたものであるが、T2・8・9・16・20・25・35・37では、竪穴住居もしくは土坑がみられた。特にT2・8では、複数

の住居が切り合って検出されており、周辺にも多くの住居が分布している可能性が高い。また、T8の表土直下では焼土を伴う土坑が検出され、埋土中より緑色を呈する石材を用いた小玉が出土し、T2においても出土位置は不明ながら玉の破片が出土している。

前述したように、今回の調査の目的は、調査地東側で確認された集落遺跡（以下、本野原遺跡）が西側にどのような広がりをもっているかという点を把握するものであった。本野原遺跡で確認された集落の時期は、縄文時代後期を中心とするものであり、現状では、後期後葉に遺構築造のピークが想定されている。これに対して、今回の調査地では、縄文時代後期全般の遺物が検出されているものの、その主体的な時期は、後期末～晩期初頭頃のものである。遺構の調査をしていないため、遺構の時期比定には不安は残るが、各トレンチから出土した遺物の状況として、本野原遺跡に近い側にあるトレンチの方が、より古い時期の遺物を出土する傾向がみられた。また、平成6年度に県教育委員会が実施した本野原・黒草第1遺跡の調査においても縄文時代晩期の比較的古い時期の遺物が主体を成している。このことから、本野原遺跡では、縄文時代後期の集落域が、時代の推移と共に、除々に西側へと広がっていった可能性が考えられる。ただし、T35～38で検出された遺構には明らかに埋土の異なるもの（全て縄文時代後期～晩期のもと考えられる）があるため、全域的に後期の遺構が分布していた可能性は否定できない。また、縄文時代後期以前については、曾畑式土器や早期包含層中からの焼礫、旧石器時代遺物の存在も確認されていることから、それぞれの時期についても遺跡が遺存している可能性は高く、今後の農地保全整備事業との調整状況によって、更に確認調査を行う必要がある。

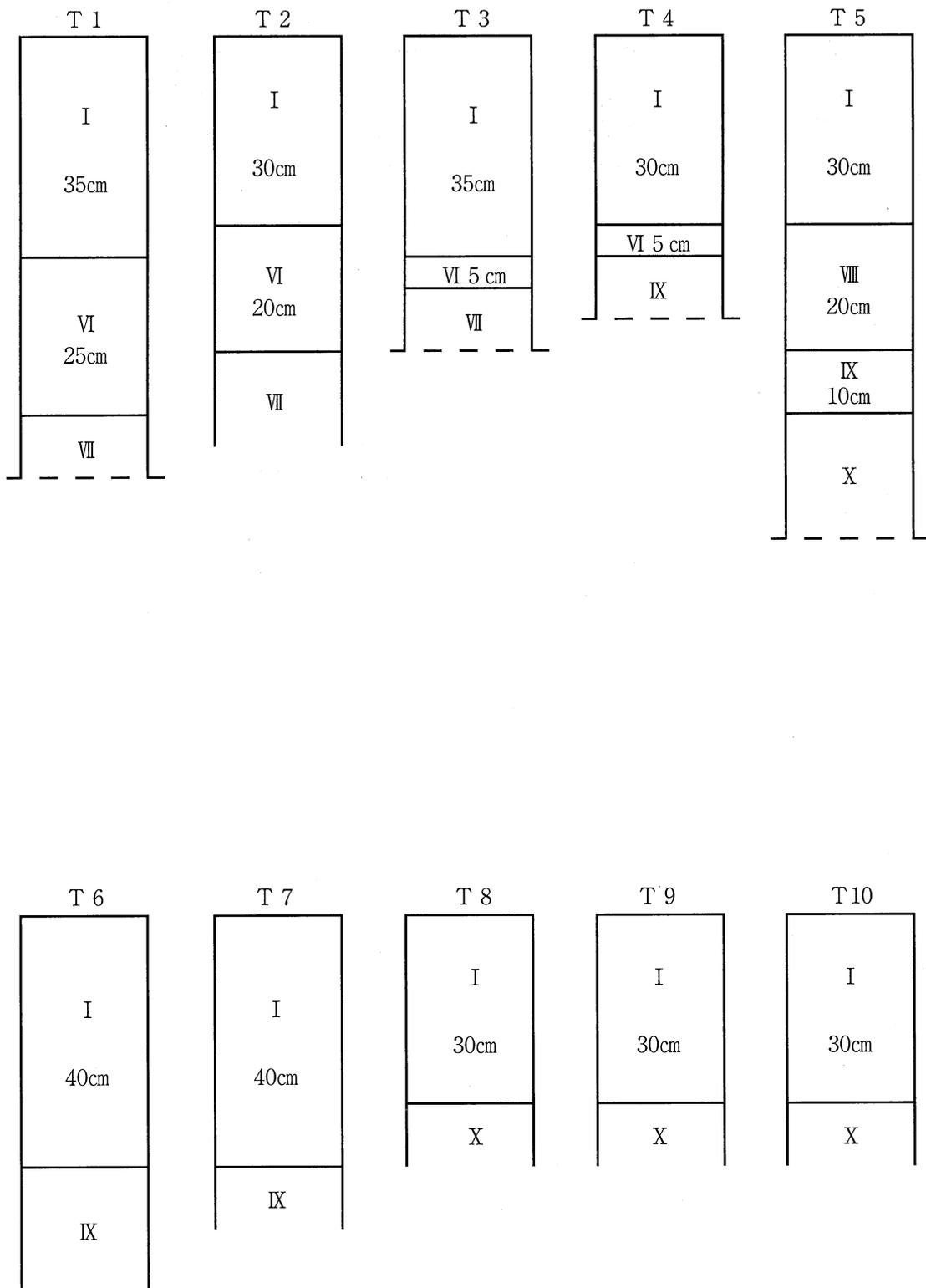


第8図 元野地区調査位置図 (1/50,000)

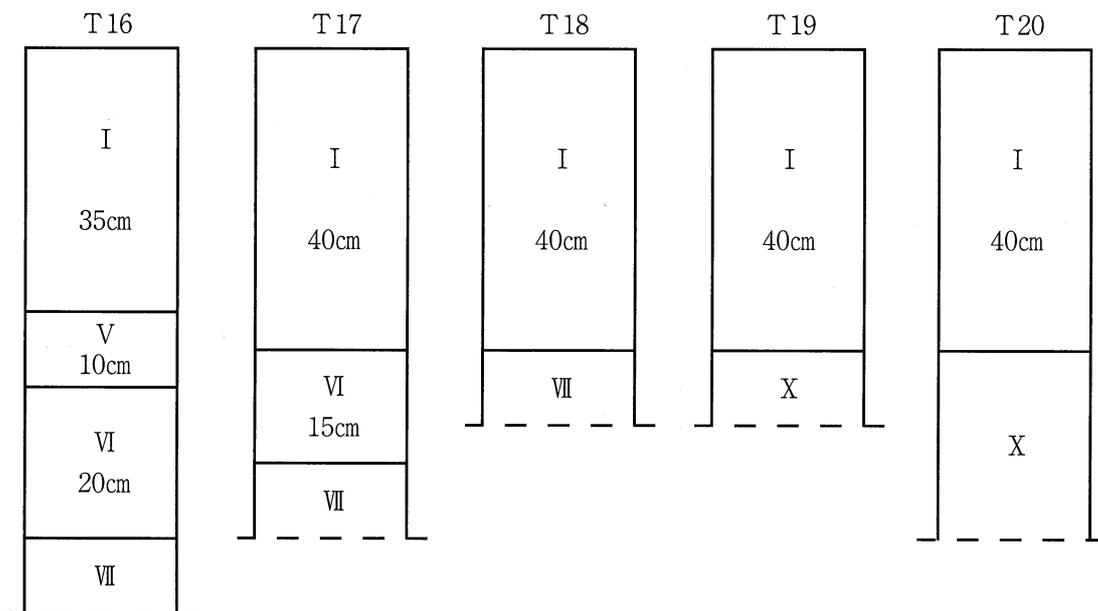
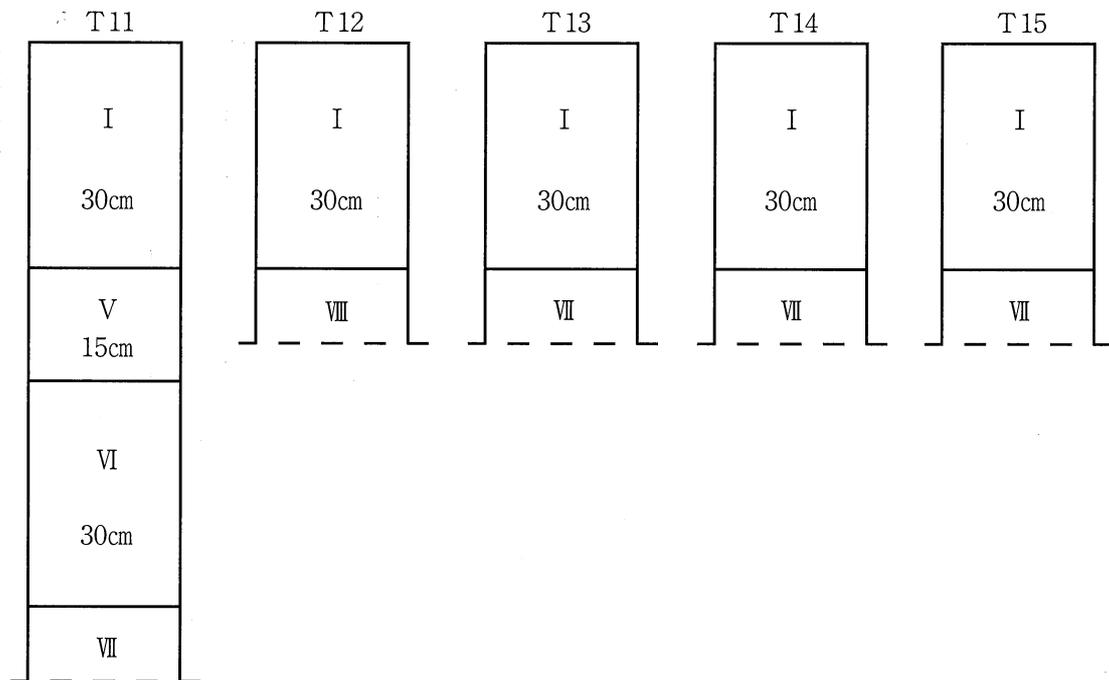


※a~nは県試掘・確認トレンチ(H6)

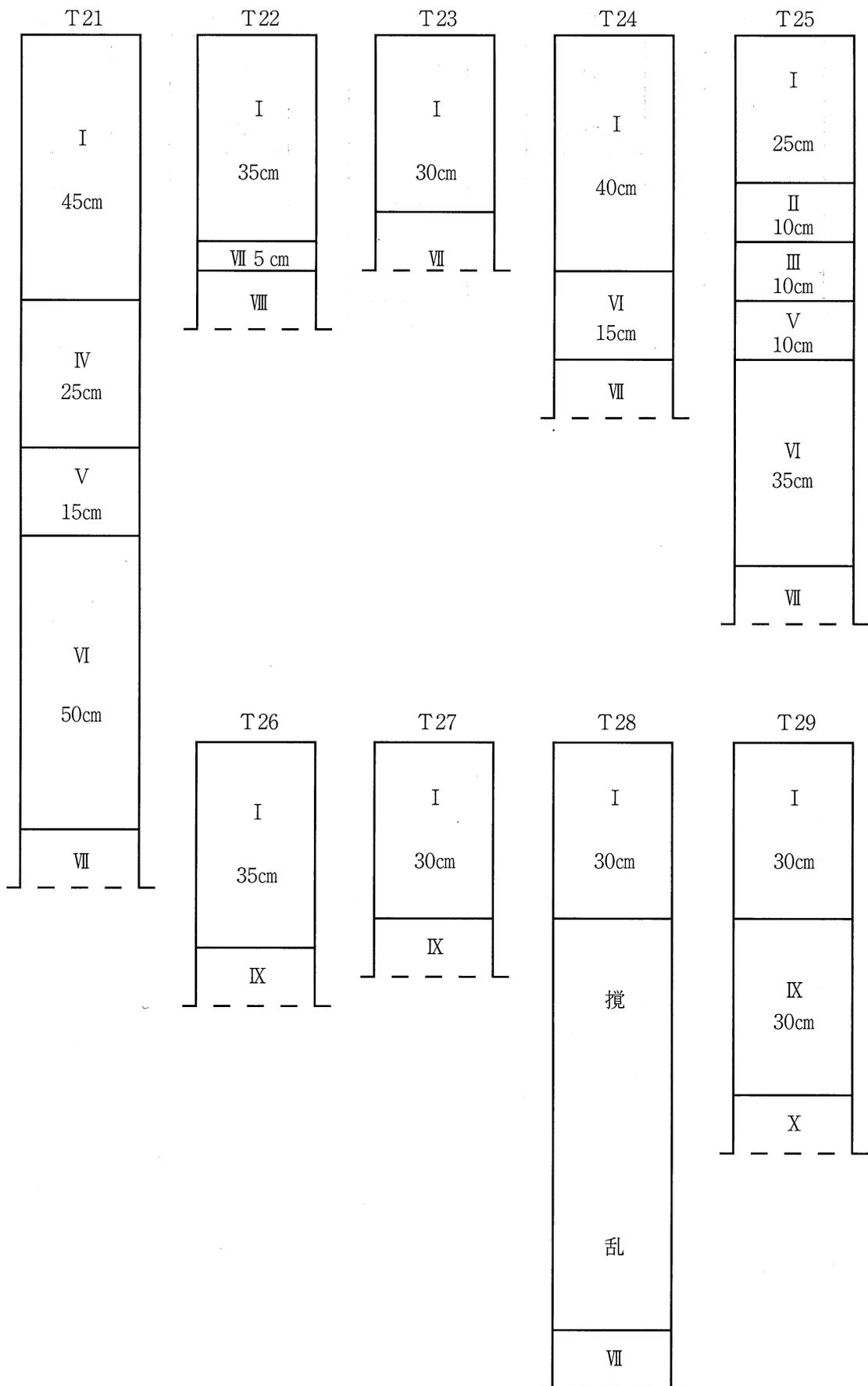
第9図 元野地区トレンチ配置図



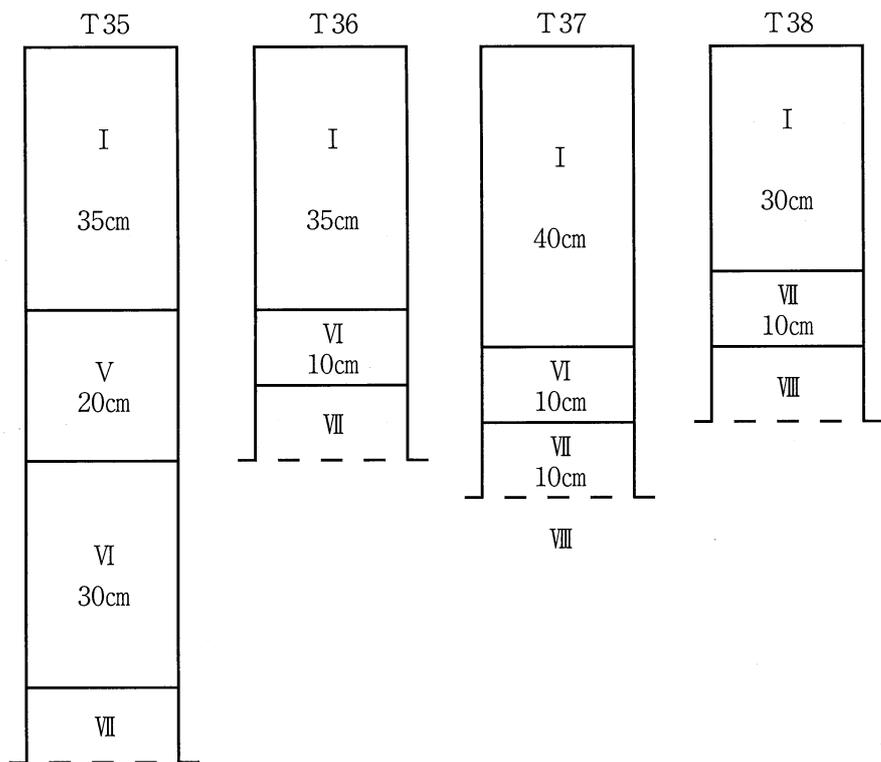
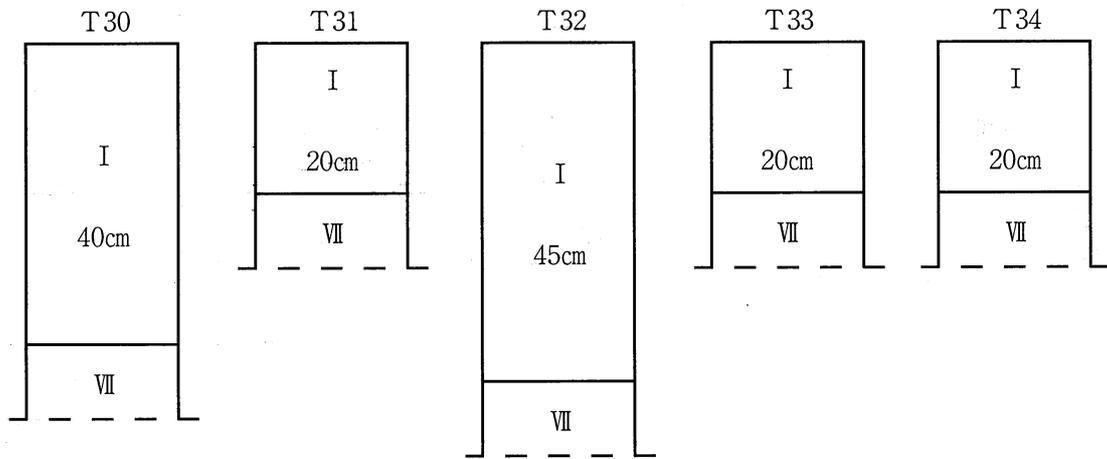
第10図 元野地区トレンチ土層柱状図 (1)



第11図 元野地区トレンチ土層柱状図 (2)



第12図 元野地区トレンチ土層柱状図 (3)



第13図 元野地区トレンチ土層柱状図 (4)

4. 県営農地保全整備事業七野八重地区（片井野第1遺跡）

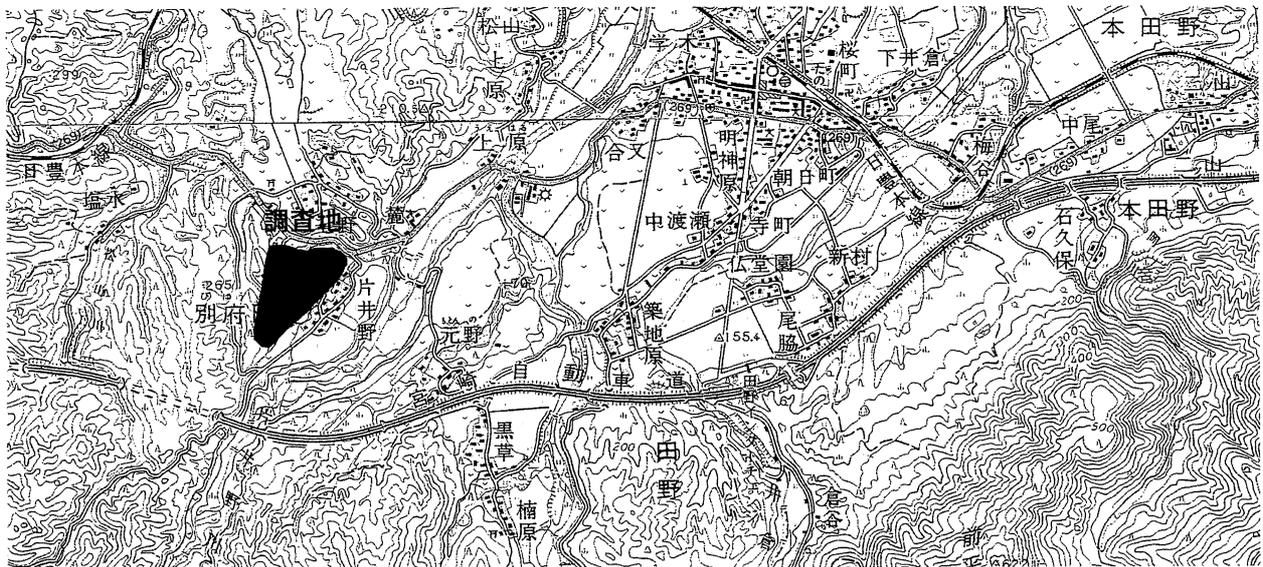
片井野第1遺跡は、宮崎県田野町大字七野に所在する。本地区では、平成14年度から県営畑地帯総合整備事業が実施される予定である。現地は、耕作者による造成や天地返しなどにより、遺跡が部分的に消滅していることが予想されたため、遺存する可能性の高い部分にトレンチを設定して調査を行った。

本年度の試掘・確認調査は、平成14年1月25日～1月28日に行った。なお、今回の調査では作付けとのかねあいから試掘箇所が少なく、次年度以降に再び確認調査を行う必要がある。

今回試掘・確認調査を実施した地点において、堆積状況の良好であったトレンチから想定される基本土層は、以下のとおりである。

I	現耕作土	20～50cm	
II	黒色土	5 cm以上	
III	文明白ボラ	5～10cm	高原スコリアを多く含む
IV	黒褐色土	20～25cm	
V	暗褐色土	5～10cm	牛の脛ローム
VI	アカホヤ火山灰	40cm	上面で柱穴状遺構検出
VII	暗褐色土		縄文時代早期包含層

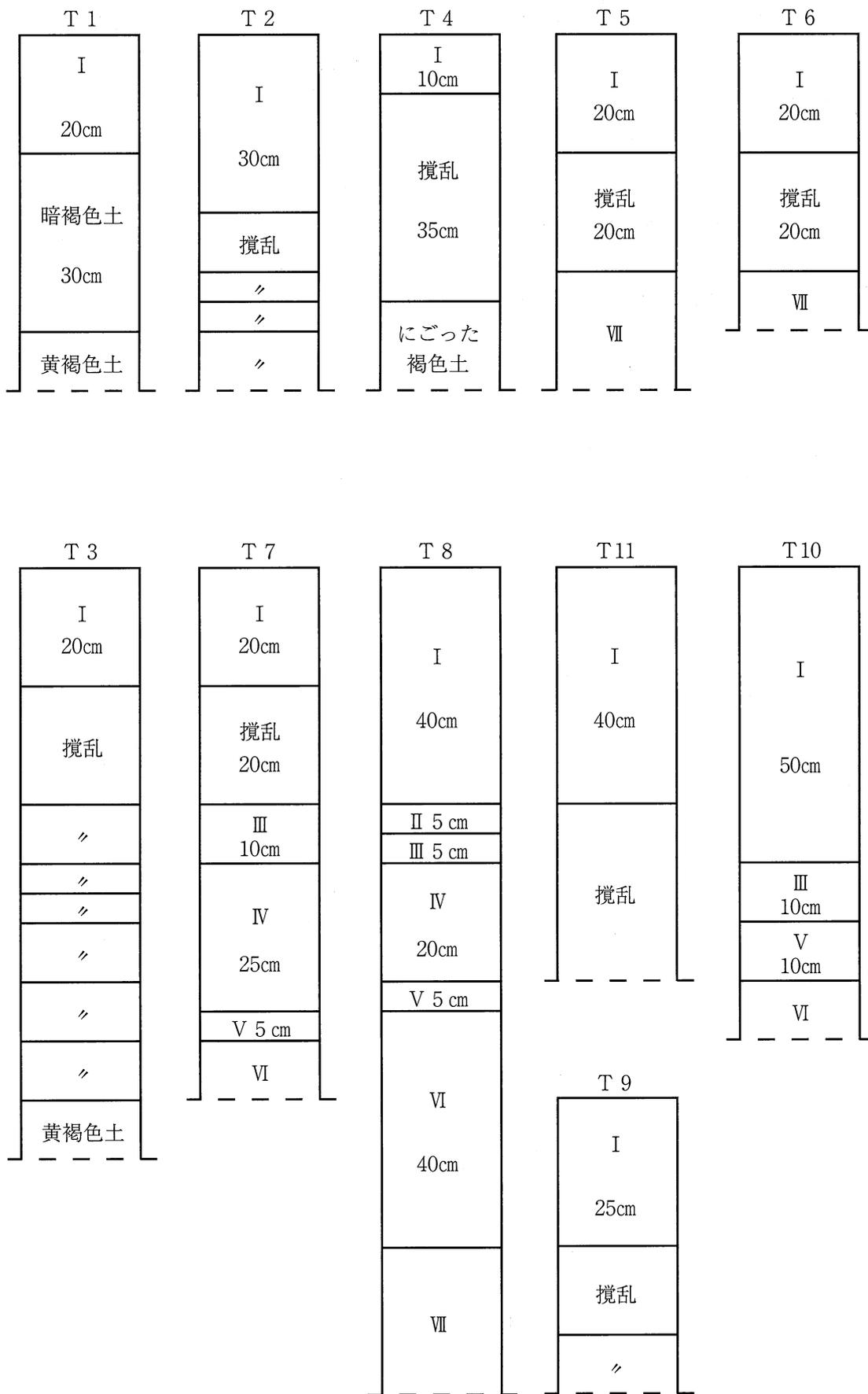
VII層以下については不明だが、T 1～4の柱状図において表土もしくは攪乱の下で確認された各層はVII層以下の可能性が高い。また、T 9・11は耕作土以下にVI・VII層のブロックが混在しており、天地返しがおこなわれていると思われる。T 7ではIV層上面で土坑、VI層上面で柱穴状遺構が検出された。このことからT 5・6周辺には縄文時代早期、T 7周辺には少なくとも中世の遺跡が遺存している可能性が高く、今後範囲を確定するための確認調査を要する。



第14図 片井第1遺跡位置図 (1/50,000)



第15図 片井第1遺跡トレンチ配置図



第16図 片井第1遺跡トレンチ土層柱状図

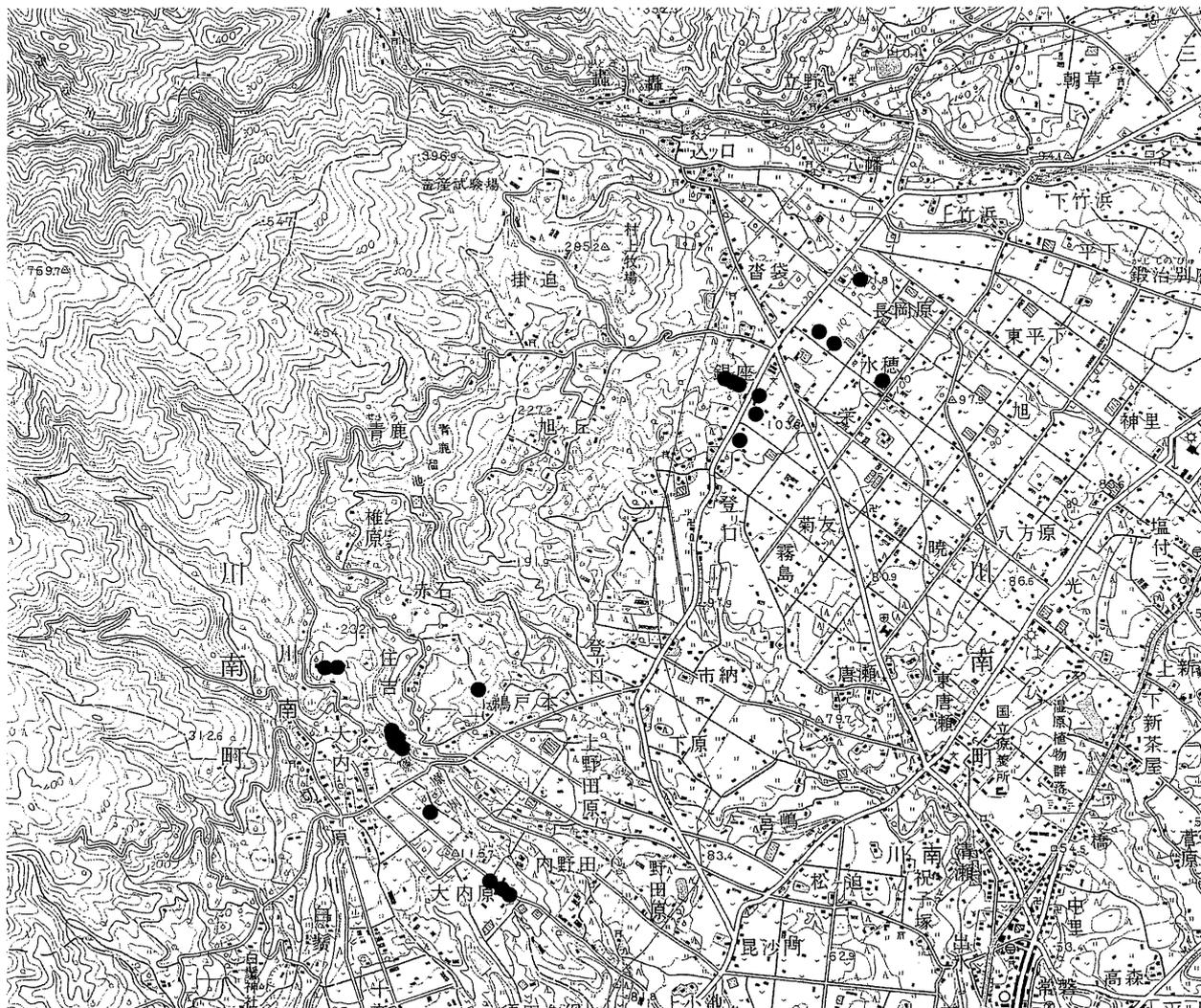
5. 国営尾鈴土地改良事業

国営尾鈴土地改良事業は、宮崎県児湯郡川南町において進められている農業水利事業で、平成8年度から平成19年度の予定で実施されている。本事業関連では、平成11年度に銀座第2ファームポンド建設に伴う藏座村遺跡の発掘調査を実施している。

今年度の本事業にかかる試掘・確認調査は、用地買収や地権者の同意が得られた下記の工事について、周知の埋蔵文化財包蔵地及びその可能性がある地点で行った。

- | | |
|-------------------|-------------------|
| (1) 霧島・八方原・平下支線水路 | (長岡原・銀座・藏座村・山本遺跡) |
| (2) 切原ダム工事用道路 | (住吉B遺跡) |
| (3) 鶴戸ノ本ファームポンド | (赤石遺跡) |

(1)～(3)における調査結果は、後述のとおりである。



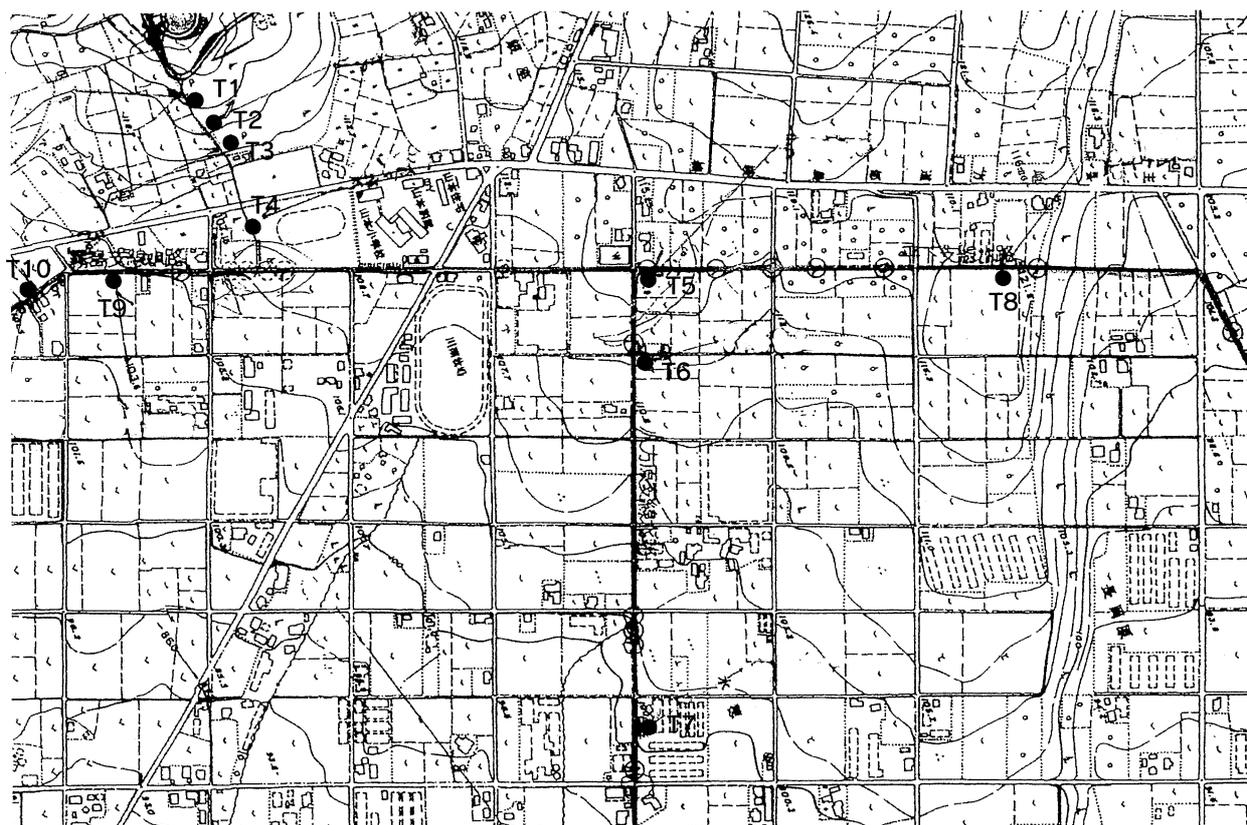
第17図 尾鈴地区調査位置図 (1/50,000)

(1) 霧島・八方原・平下支線水路 (長岡原・銀座・藏座村・山本遺跡)

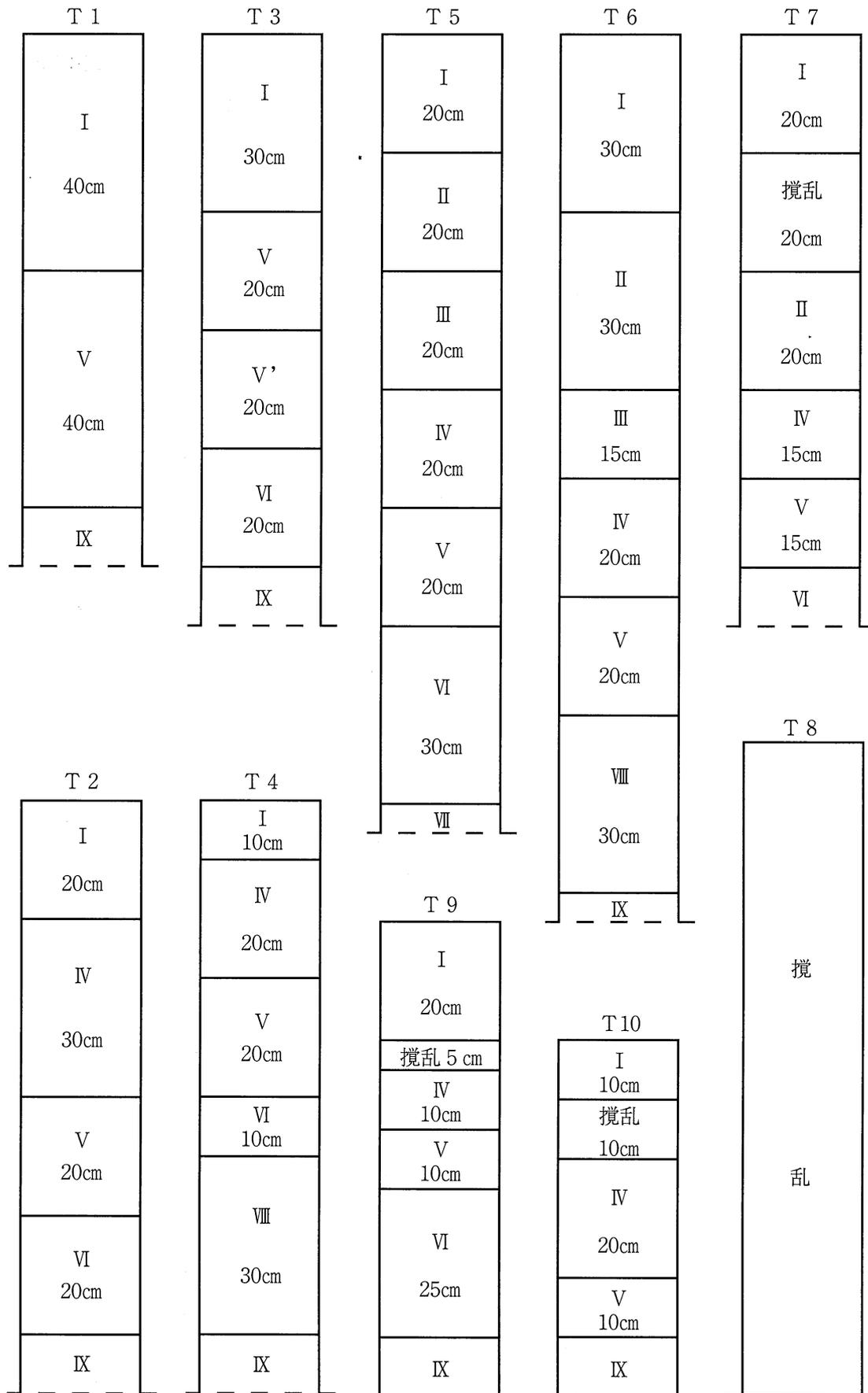
本事業は、現農道下に管を埋設するという事業であったため、道路に近接する畑等に10カ所のトレンチを設定し、平成13年8月1・2日の2日間に調査を実施した。対象範囲が広く、4つの周知の埋蔵文化財包蔵地を含むが、トレンチの状況から、以下の基本土層が想定された。

I	現耕作土	10~40cm	
II	アカホヤ火山灰	20~30cm	
III	黒色土	15~20cm	
IV	黒褐色土	15~30cm	
V	暗褐色土	10~40cm	
VI	黄褐色土	10~30cm	
VII	暗黄褐色土	10cm 以上	
VIII	小林軽石	30cm	上面で柱穴状遺構検出
IX	黄褐~明黄褐色土		

調査の結果、各トレンチは比較的良好な堆積状況であったが、T6においてVII層上面から柱穴状の遺構を検出した以外に遺構・遺物は検出されなかった。



第18図 霧島・八方原・平下支線水路トレンチ配置図



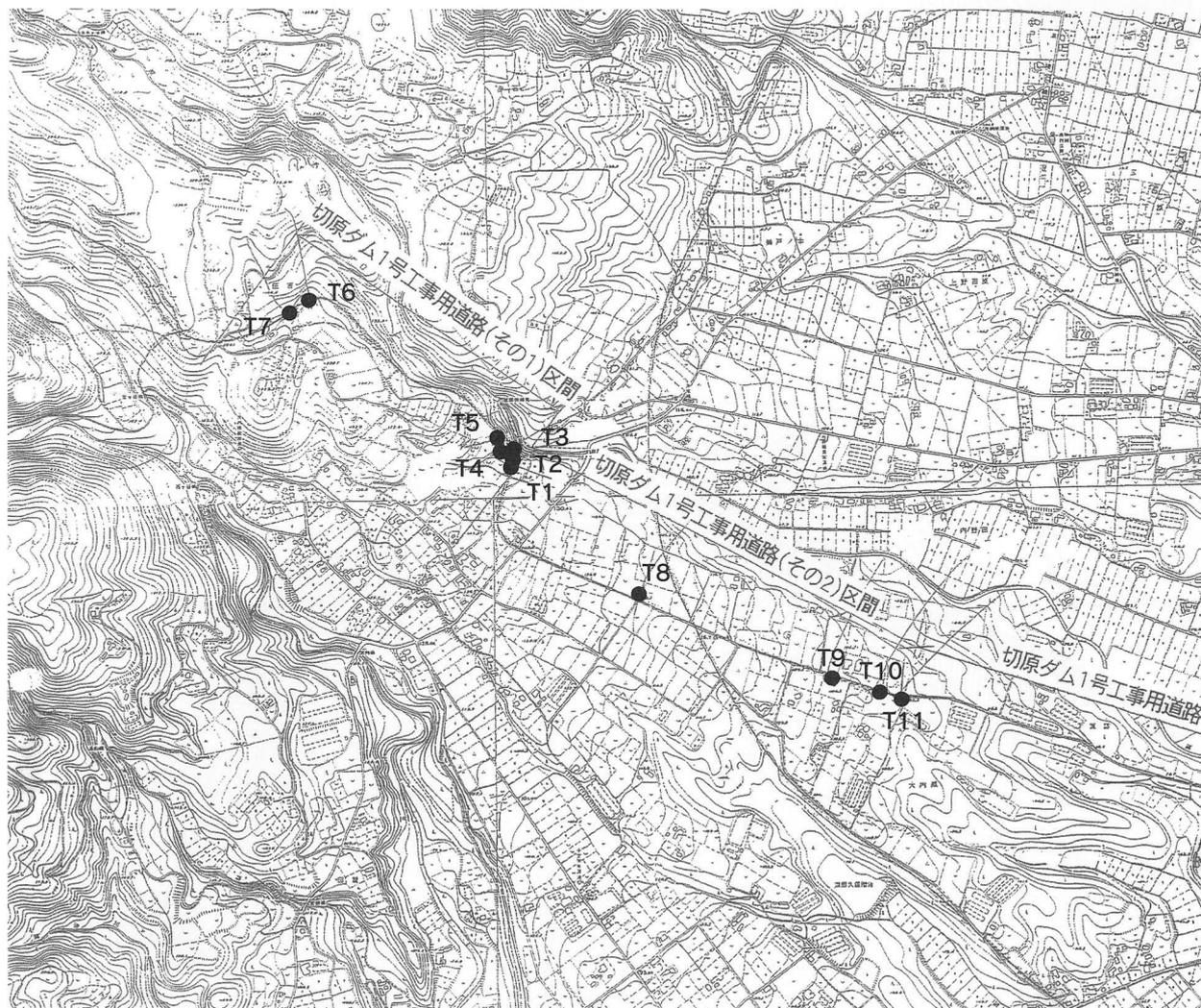
第19図 霧島・八方原・平下支線水路トレンチ柱状図

(2) 切原ダム工事用道路（住吉B遺跡）

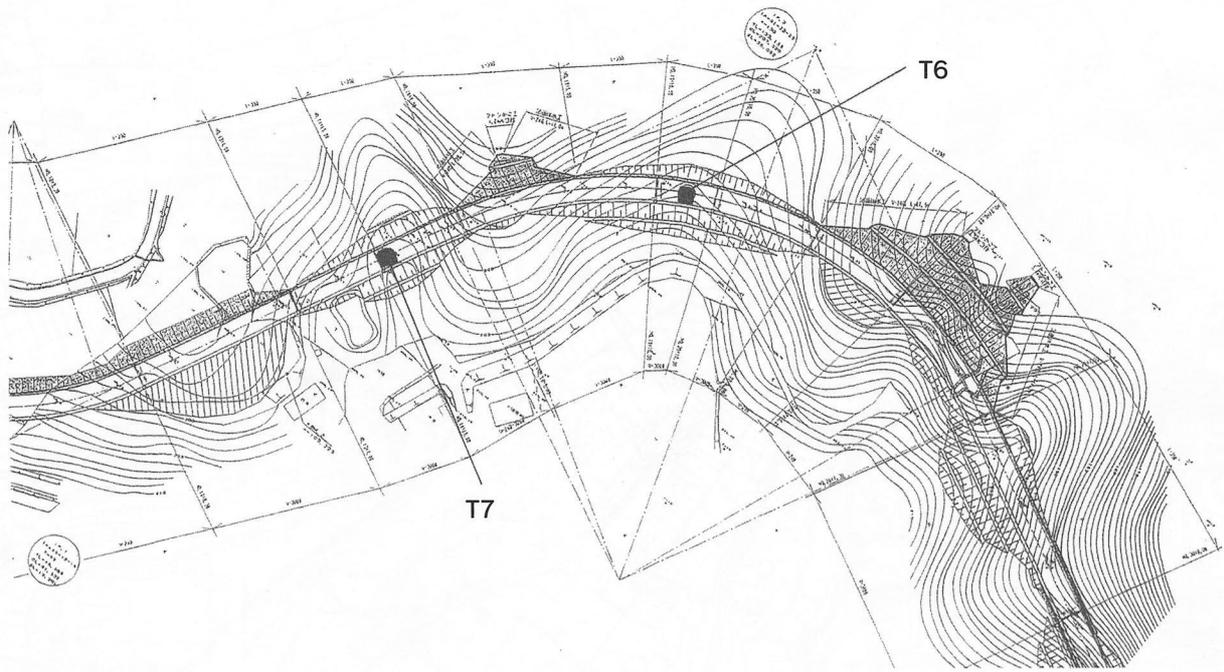
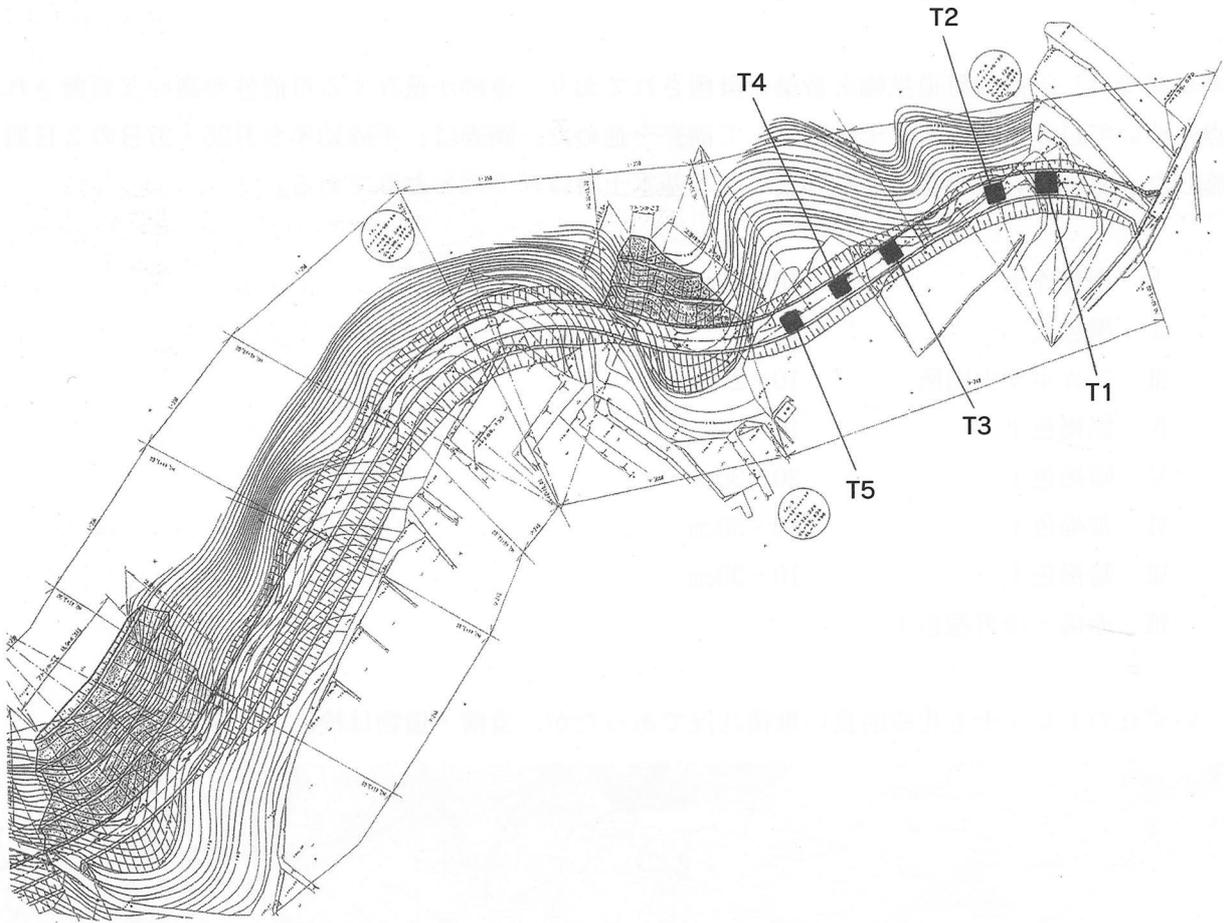
本事業では、一部現町道拡幅と新築が計画されており、遺跡が遺存する可能性が高いと判断された地点について11カ所のトレンチを設定して調査を進めた。調査は、平成13年9月26・27日の2日間に実施した。各トレンチの状況から判断される基本土層は以下のとおりである。

I	現耕作土	10～60cm
II	黒色土	10cm
III	アカホヤ火山灰	10～20cm
IV	黒褐色土	10～20cm
V	暗褐色土	20～30cm
VI	黄褐色土	10～30cm
VII	暗褐色土	10～30cm
VIII	赤褐～淡黄橙色土	

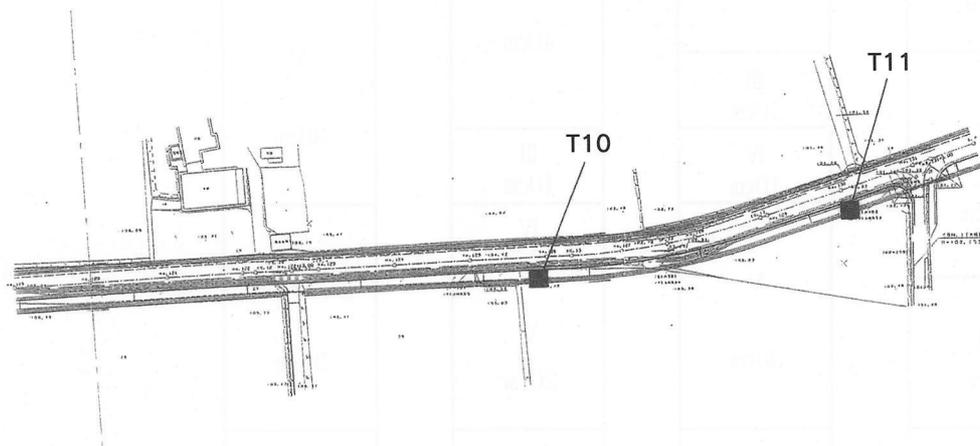
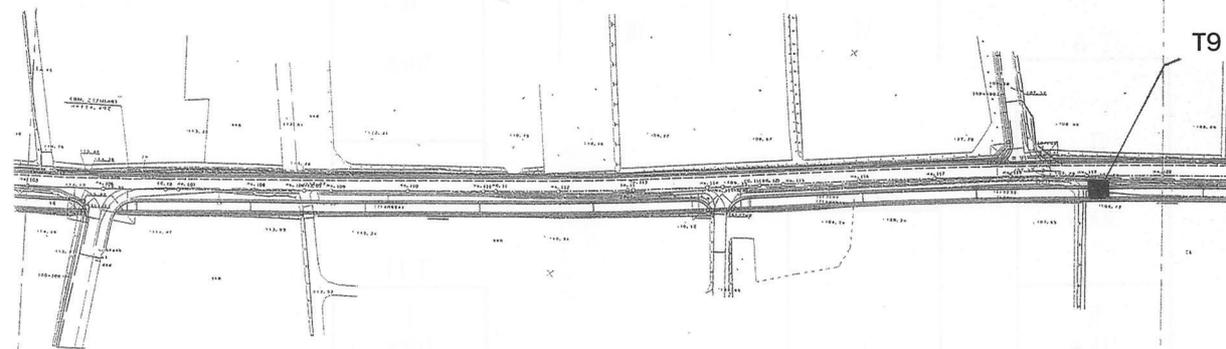
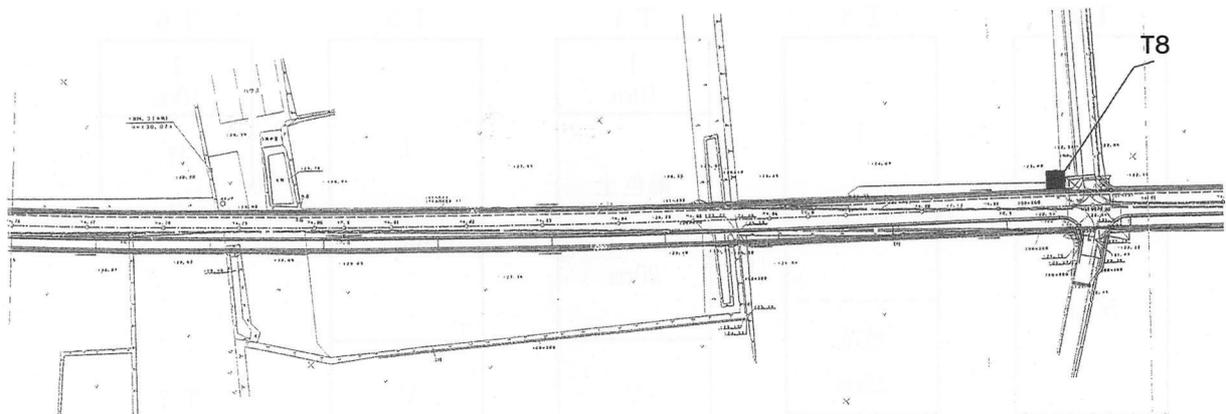
いずれのトレンチも比較的良い堆積状況であったが、遺構・遺物は検出されなかった。



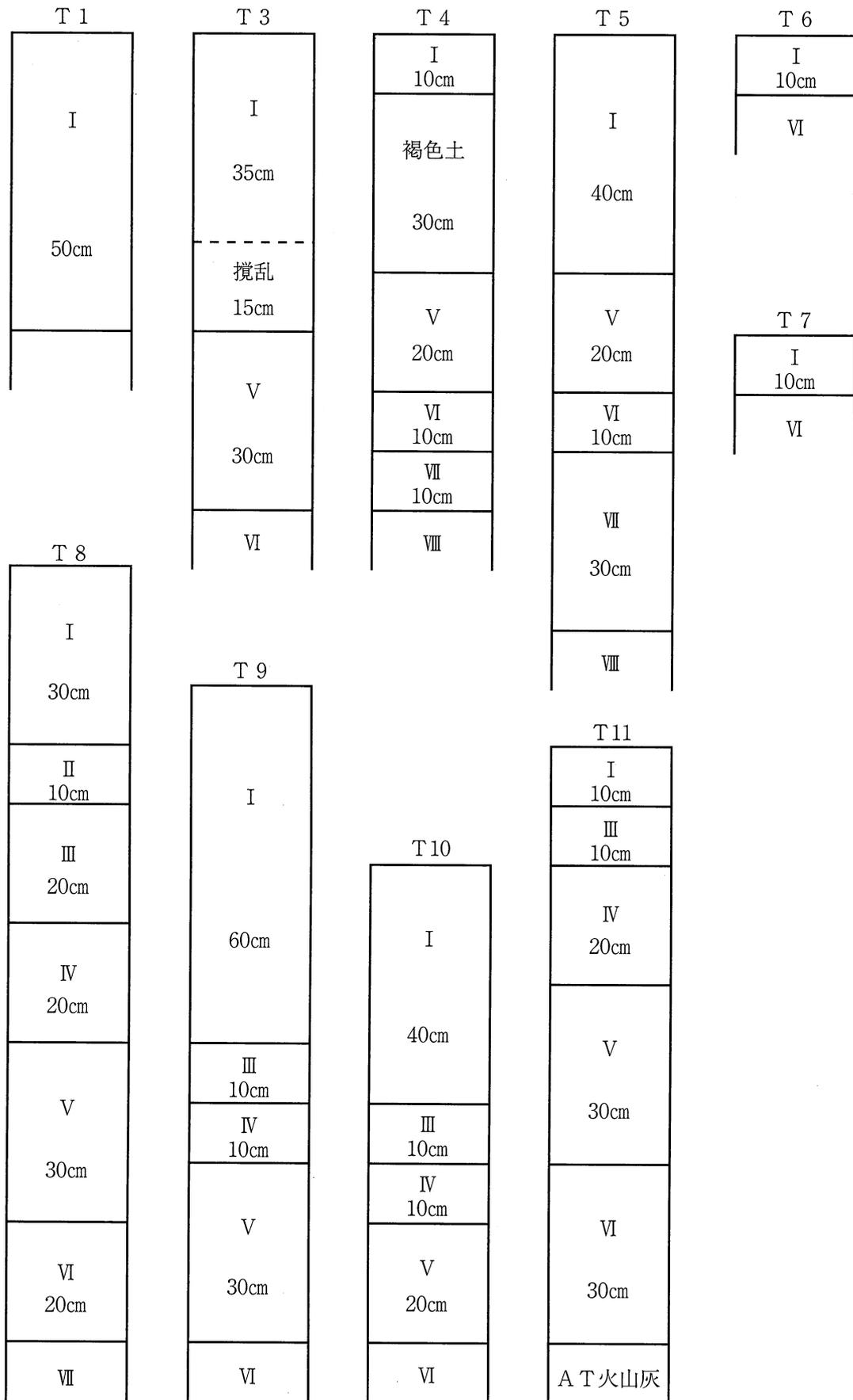
第20図 切原ダム工事用道路トレンチ位置図



第21図 切原ダム工事用道路トレンチ配置図 (1)



第22図 切原ダム工事用道路トレンチ配置図 (2)



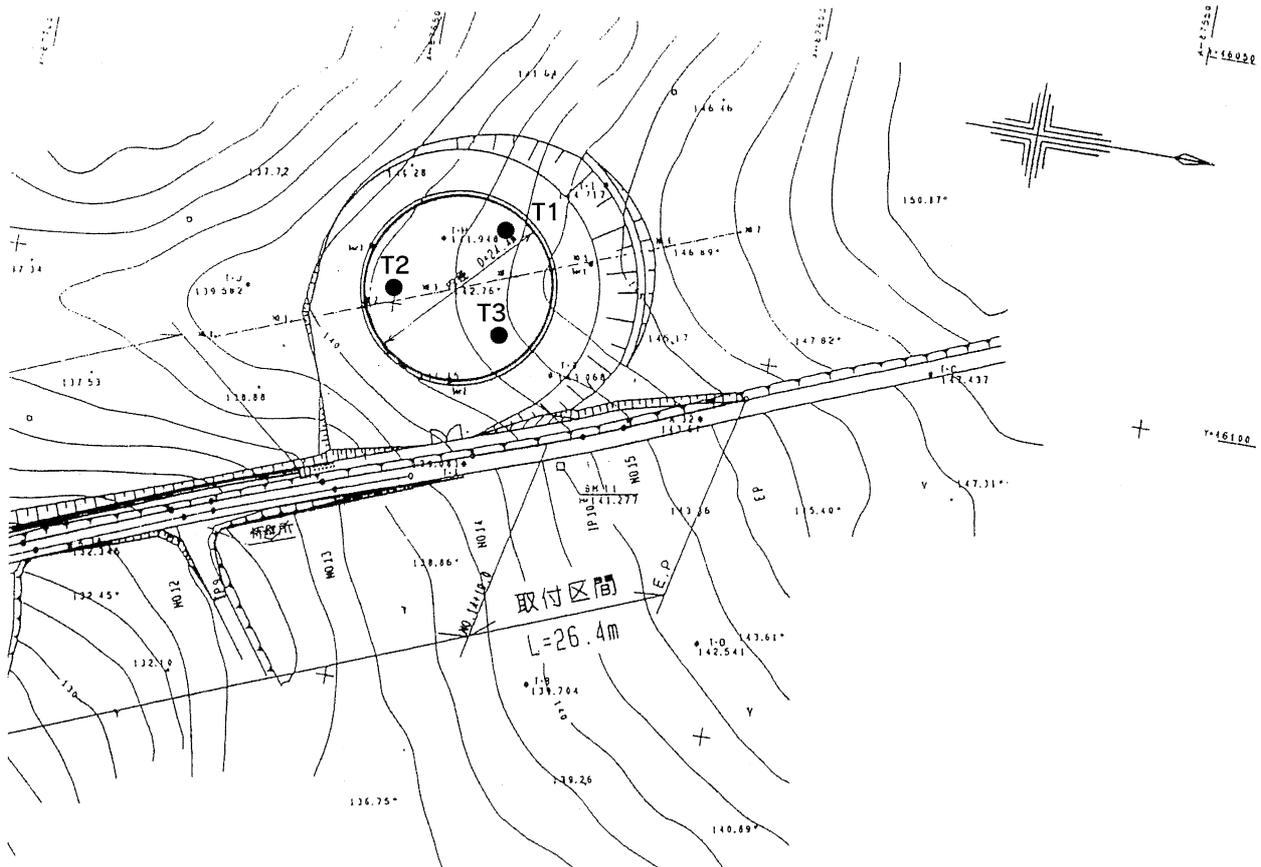
第23図 切原ダム工事用道路トレンチ土層柱状図

(3) 鶴戸ノ本ファームポンド（赤石遺跡）

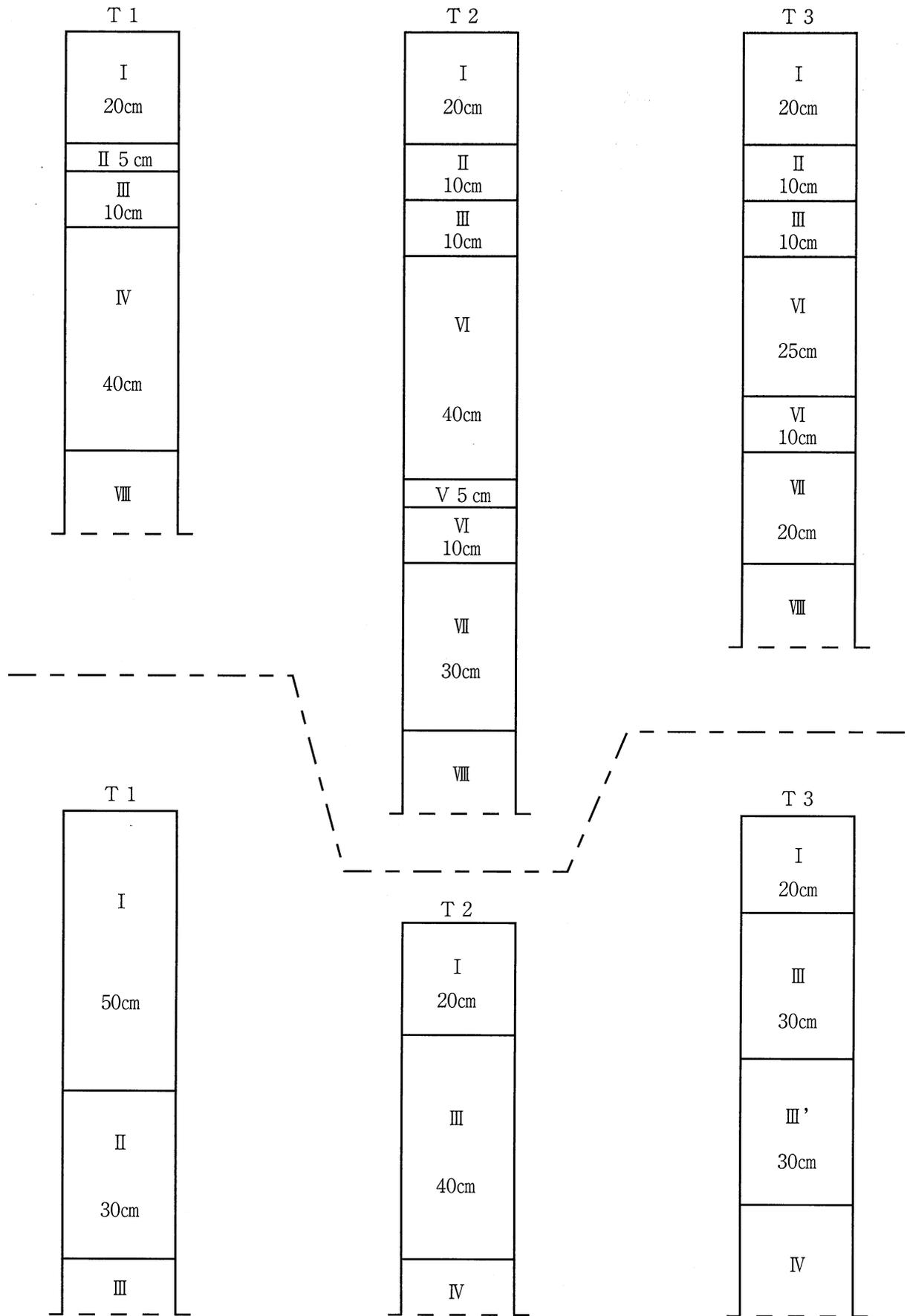
鶴戸ノ本ファームポンド建設予定地は、周知の埋蔵文化財包蔵地である赤石遺跡に含まれる南向きの緩斜面地である。ここに3カ所のトレンチを設定して調査を進めた。調査は平成13年9月27日に実施した。各トレンチの状況から判断される基本土層は以下のとおりである。

I	現耕作土	25～60cm	
II	アカホヤ火山灰	10～60cm	
III	暗褐色土	5～15cm	
IV	褐色土	10～25cm	
V	暗褐色土	5～45cm	
VI	黄褐色土	10～20cm	A T火山灰？をわずかに含む
VII	暗褐色土	10～25cm	
VIII	淡黄橙色土	10～50cm	礫を多く含む。

いずれのトレンチからも遺構・遺物は検出されなかった。ただし、縄文時代晩期の土器片が1点表採されたことから、本来は遺跡が所在したことが伺われる。調査地は現状で杉が植林されており、表土直下にアカホヤ火山灰が検出されたことから、この植林に伴う造成によって遺跡が消滅した可能性が高い。



第24図 鶴戸ノ本ファームポンドトレンチ配置図



第25図 鵜戸ノ本ファームポンドトレンチ(上半)及び垂水・蓮ヶ池ファームポンドトレンチ(下半)土層柱状図

6. 大淀川左岸農業水利事業

大淀川左岸農業水利事業は、宮崎市・高岡町・綾町・野尻町等を対象とした農業水利事業で、昭和53年度以降現在も継続中である。今年度は、本事業に伴う垂水・蓮ヶ池ファームポンド建設予定地について試掘調査を実施した。調査期日は、平成13年11月8日の1日間である。

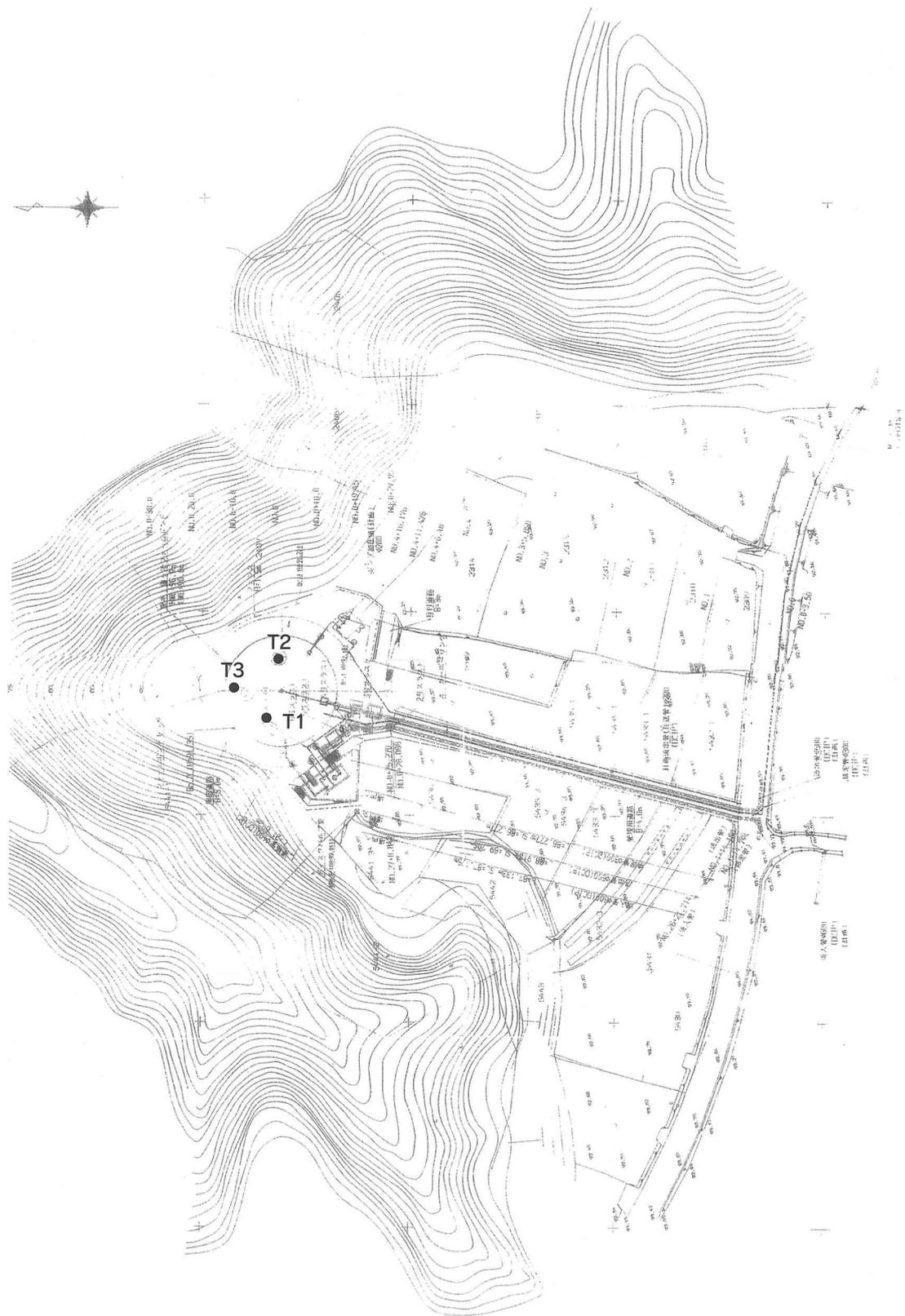
試掘地点は、南側に垂水第2遺跡が近接するところで、地形的にも台地の縁辺部であったことから遺跡の遺存する可能性が考えられたため、3カ所のトレンチを設定して調査を進めた。各トレンチの状況から考えられる基本土層は以下のとおりである。

I 現耕作土	20~50cm	
II 明褐色土	30cm	アカホヤ火山灰の二次堆積の可能性がある。
III 濁った褐色土	30~40cm	礫を含む。
IV 淡黄色土	20~25cm	粘質が強く、礫を含む。

調査地は現況で南側の畑よりも1段下がった状況であったことから、近代以降の地形変化が予想される。各トレンチにおいて確認された土層は、このことを反映していると考えられ、遺構・遺物は検出されなかった。ただし、南側の畑では縄文時代のものと考えられる剥片や、中世の土器が表採できたことから、本来は遺跡が所在した可能性が高い。



第26図 垂水・蓮ヶ池ファームポンド調査位置図 (1/50,000)



第27図 垂水・蓮ヶ池ファームポンドトレンチ配置図

農用地総合整備事業

本事業は緑資源公団（旧農用地整備公団）によりほ場整備及び広域農道建設が実施されている。

平成5年度から県文化課と文化財所在の有無等の協議が始まり、現在に至っている。平成13年度は、広域農道建設予定地での試掘・確認調査、分布調査を実施し2つの遺跡を確認している。

豊満大谷遺跡

平成13年5月24日から31日にかけて試掘調査を実施した豊満大谷遺跡は、都城市豊満町大字大谷に所在する。

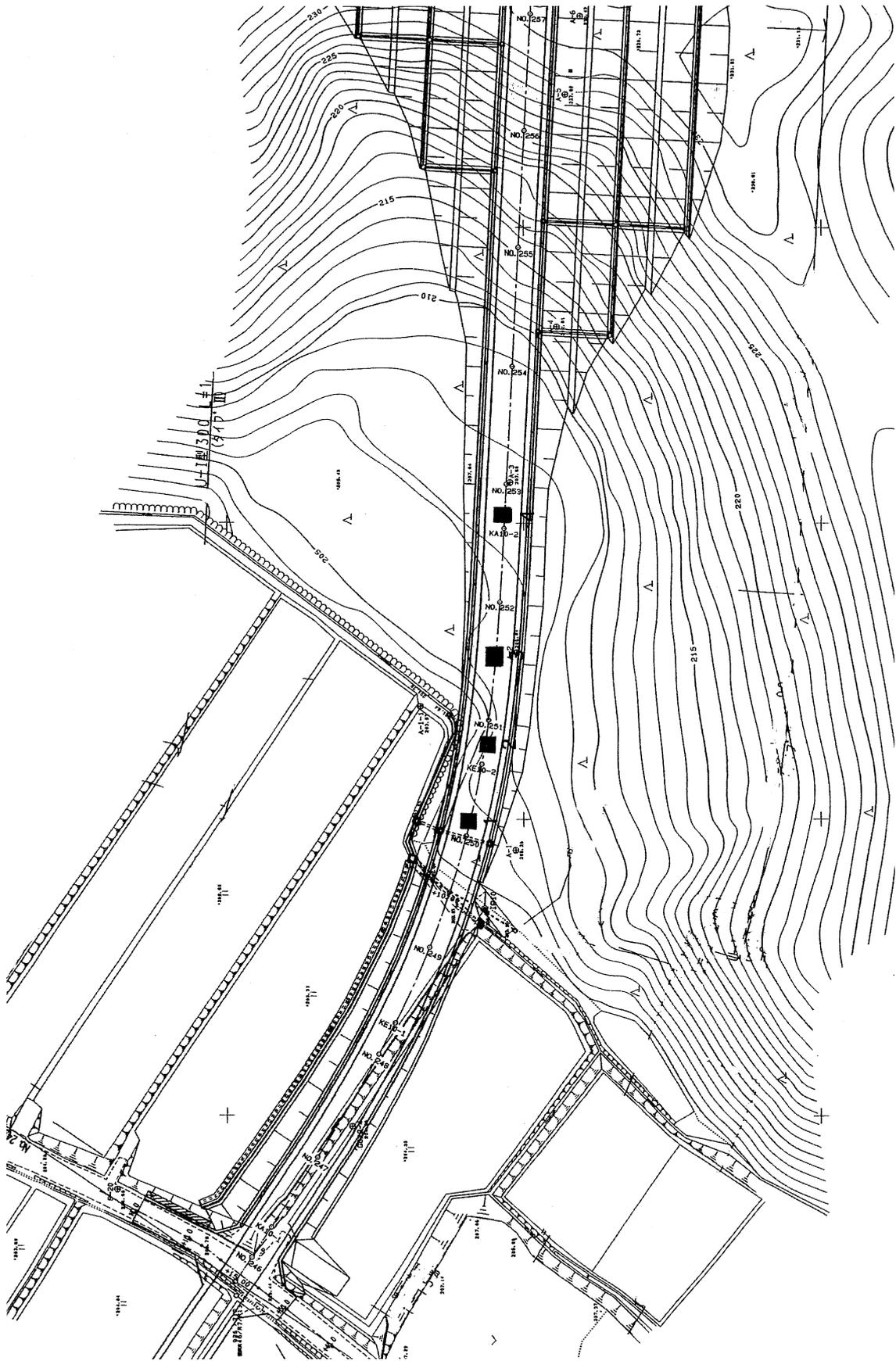
調査は、水田部と丘陵裾部の平坦地を対象にして実施した。水田部分は現地表面から約3mまで掘り下げたが、客土が厚く、1.5mほど堆積していた。客土層下からはレキ混じりの層が続き、湧水が激しく壁が崩落するほどの勢いであった。丘陵裾部の平坦地は、4本のトレンチを設定して掘り下げを行った。基本層序は以下のとおりである。

- | | | |
|------------|------------|--------------------|
| I層 表土 | II層 黒色土層 | III層 褐色土層（御池ボラが混入） |
| IV層 御池ボラ層 | V層 黄褐色土層 | VI層 アカホヤ層 |
| VII層 暗褐色土層 | VIII層 褐色土層 | |

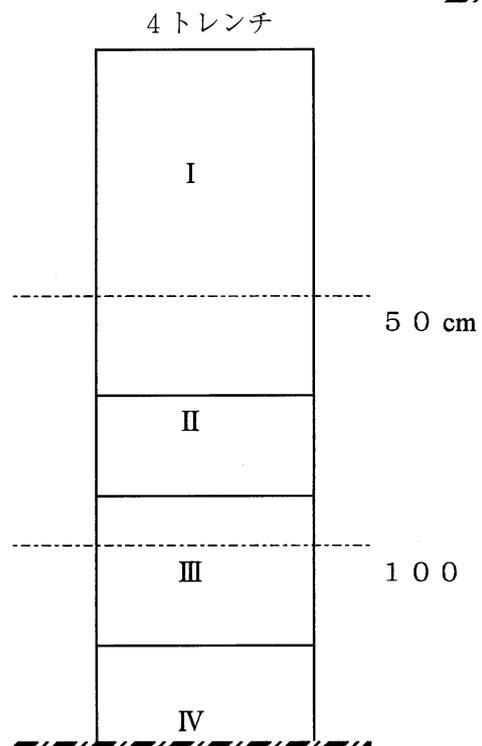
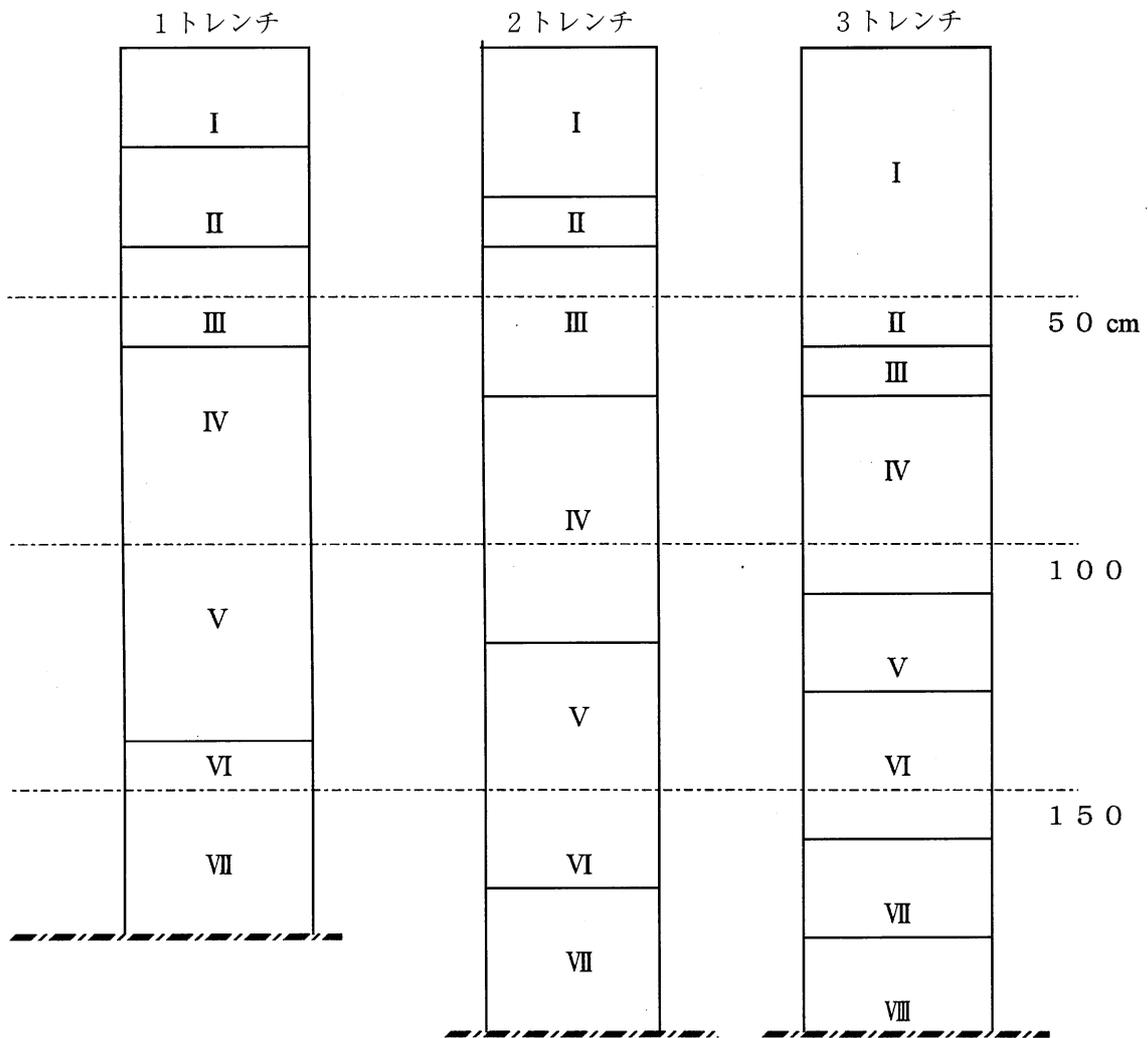
遺物は1・2・4トレンチから出土しており、いずれもIII層から確認された。



第28図 位置図



第29図 トレンチ配置図



宇都第3遺跡

本遺跡は北諸県郡三股町大字宮村223-2ほかに所在する。確認調査は平成13年12月6日から11日にかけて実施した。

調査地は竹林となっており、竹の間をぬうようにトレンチ設定を行った。トレンチは全部で11本設定した。基本層序は以下のとおりである。

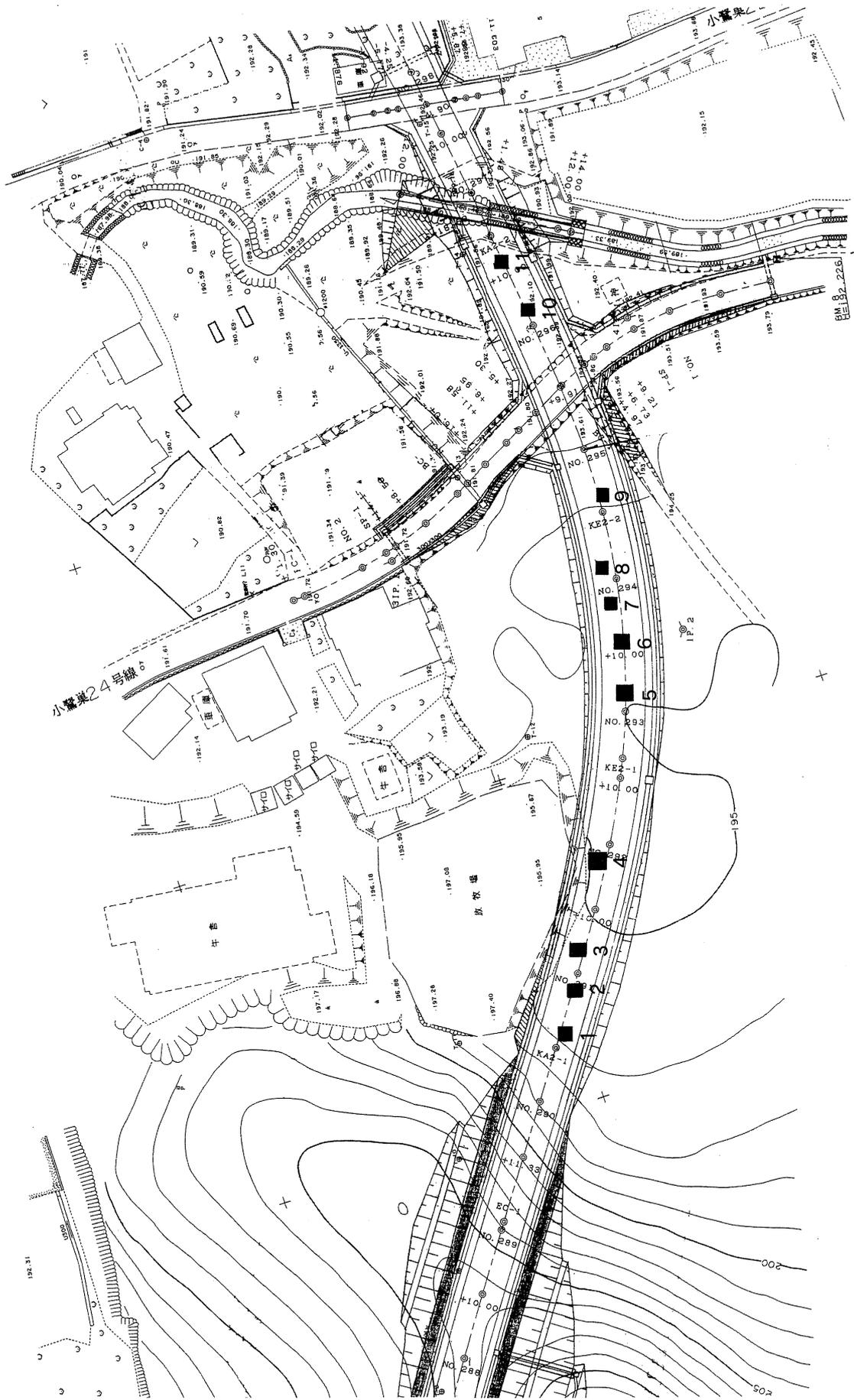
- I層 表土
- II層 黒褐色土層
- III層 褐色土層（御池ボラが混入）
- IV層 御池ボラ層
- V層 褐色土層
- VI層 明黄褐色土層

※ I層とII層の間に白ボラ層が入るトレンチもある。

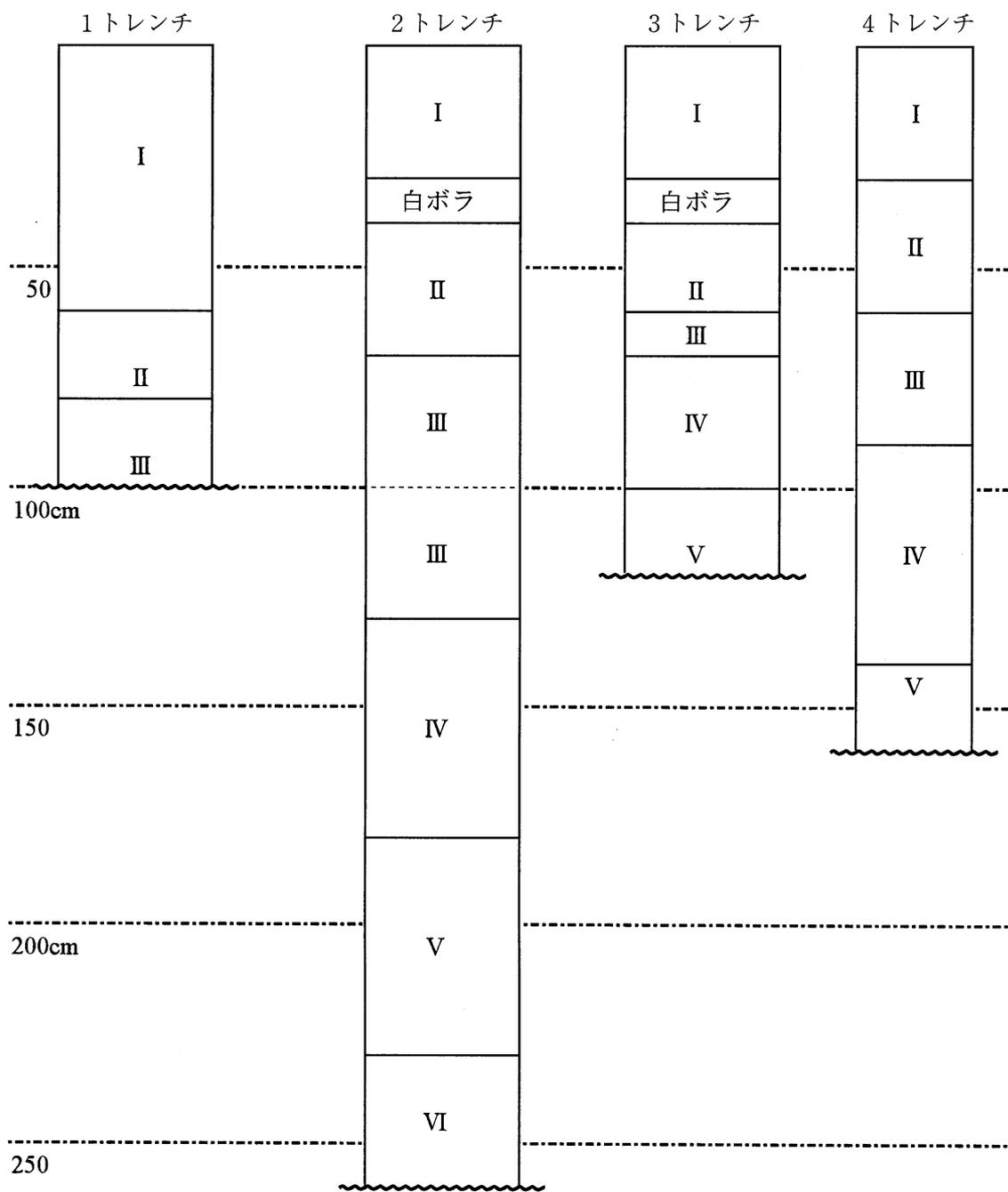
調査の結果、遺物が出土したトレンチは、1・2・3・4・9で特に2・3トレンチからは多量の土師器片が出土した。遺物出土層位は、II層の黒褐色土層下半部、III層の褐色土層の上半部である。1・2・3・9トレンチからは柱穴、溝状あるいは土坑と考えられる遺構が確認できた。遺構はIII層の褐色土層から確認できる。10・11トレンチでは、遺構・遺物の検出はなく、レキ層が確認されたので削平により包含層は滅失していると判断した。

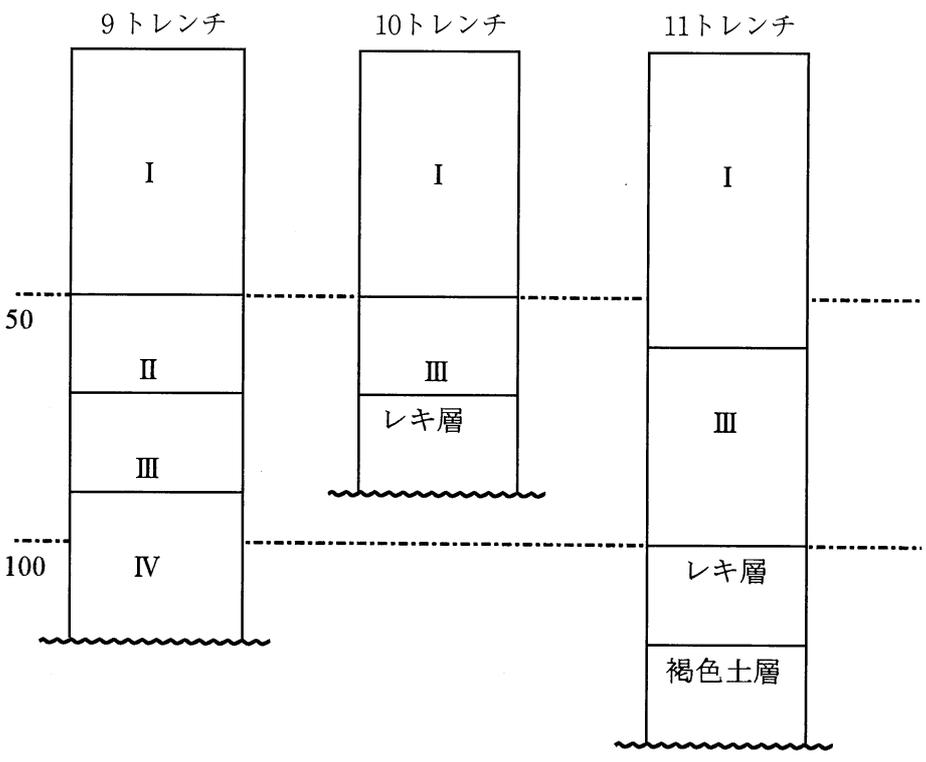
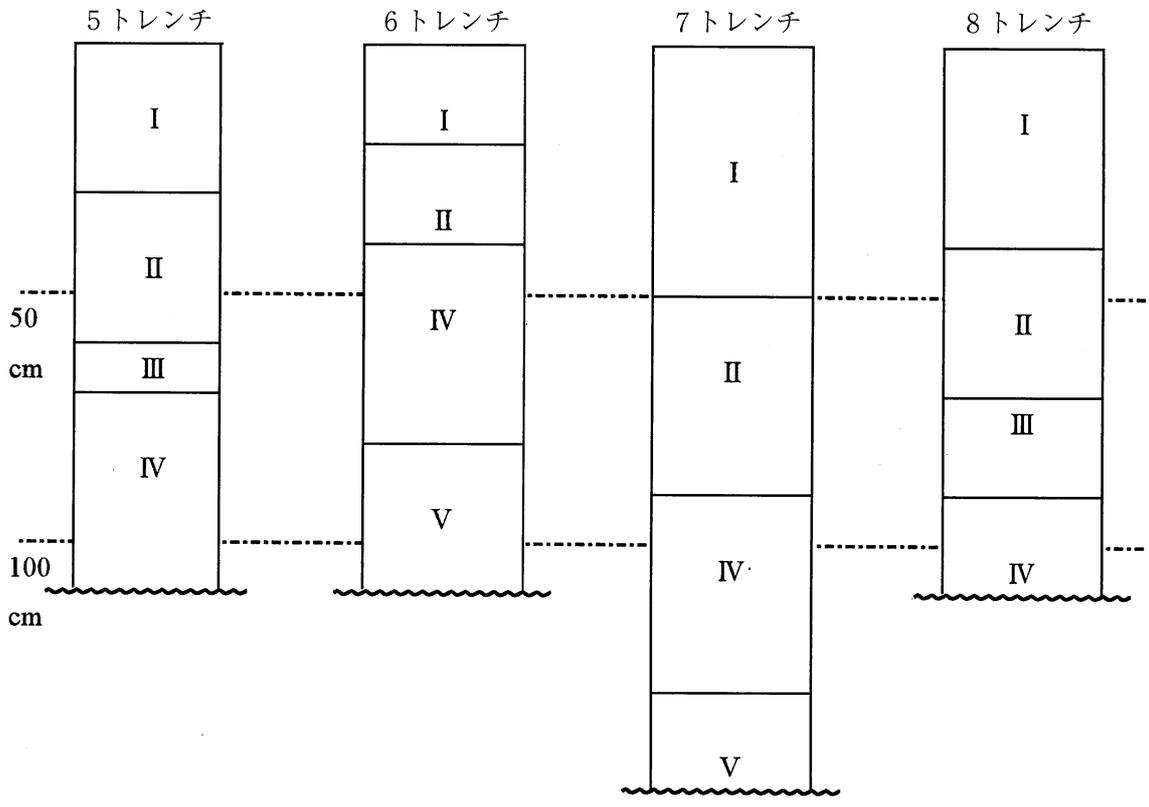


第31図 位置図



第35図 トレンチ配置図





星原遺跡

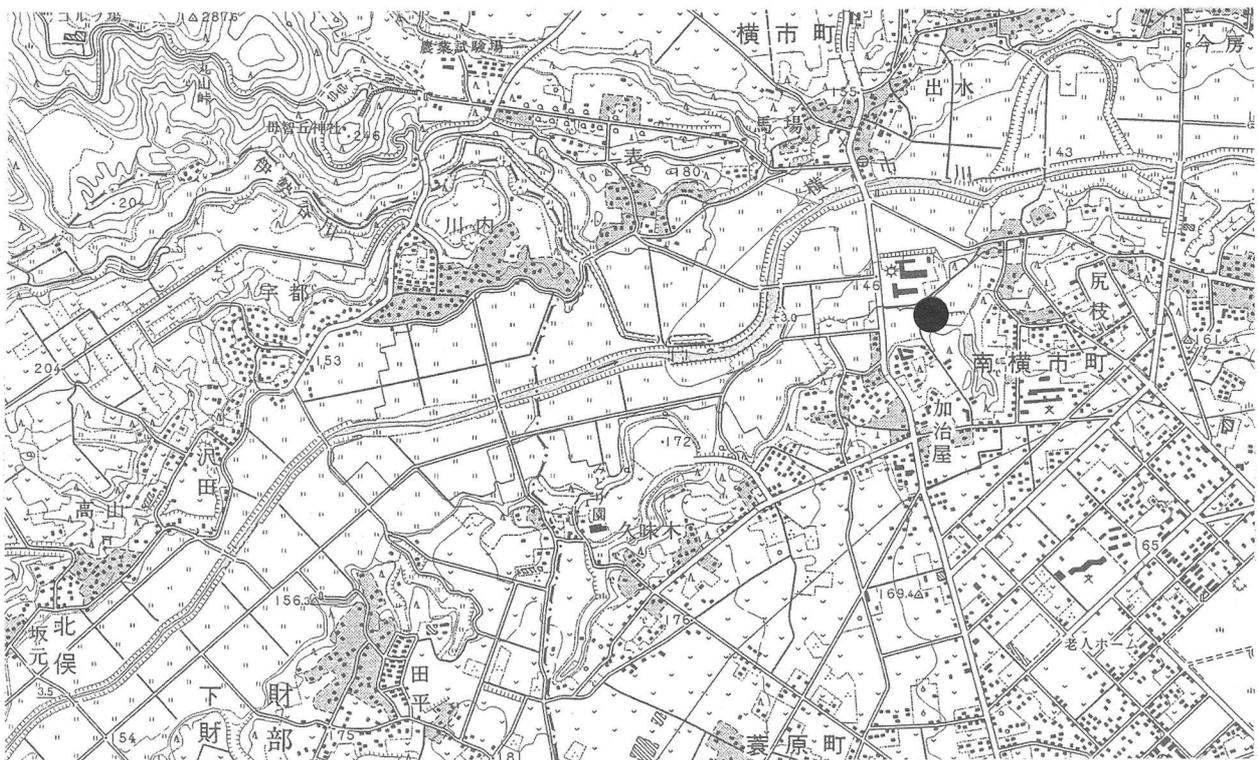
本遺跡は北諸県農林振興局が実施している、県営ほ場整備事業（担い手育成基盤整備事業）「横市地区」に伴い平成11年度に最初の試掘調査を実施している。13年度は、事業計画決定に伴い前回実施した試掘調査の追加調査として実施した。

11年度の調査では、文明ボラ層下の黒褐色土層から遺物が確認されており、御池ボラ層直上の黒色土層からピット等の遺構が確認されている。

13年度は7本のトレンチを設定して掘り下げを行った。基本層序は以下のとおりである。

- I層 表土（水田耕作土）
- II層 黒灰～黒褐色土
- III層 暗灰色軽石層（文明ボラ）
- IV層 黒色土
- V層 黒褐色土 御池ボラ混入
- VI層 御池ボラ層
- VII層 黒色土
- VIII層 アカホヤ層

調査の結果、4トレンチと5トレンチから遺物が確認された。4トレンチではV層から縄文・弥生土器片が、5トレンチではVIII層から春日式土器が出土した。

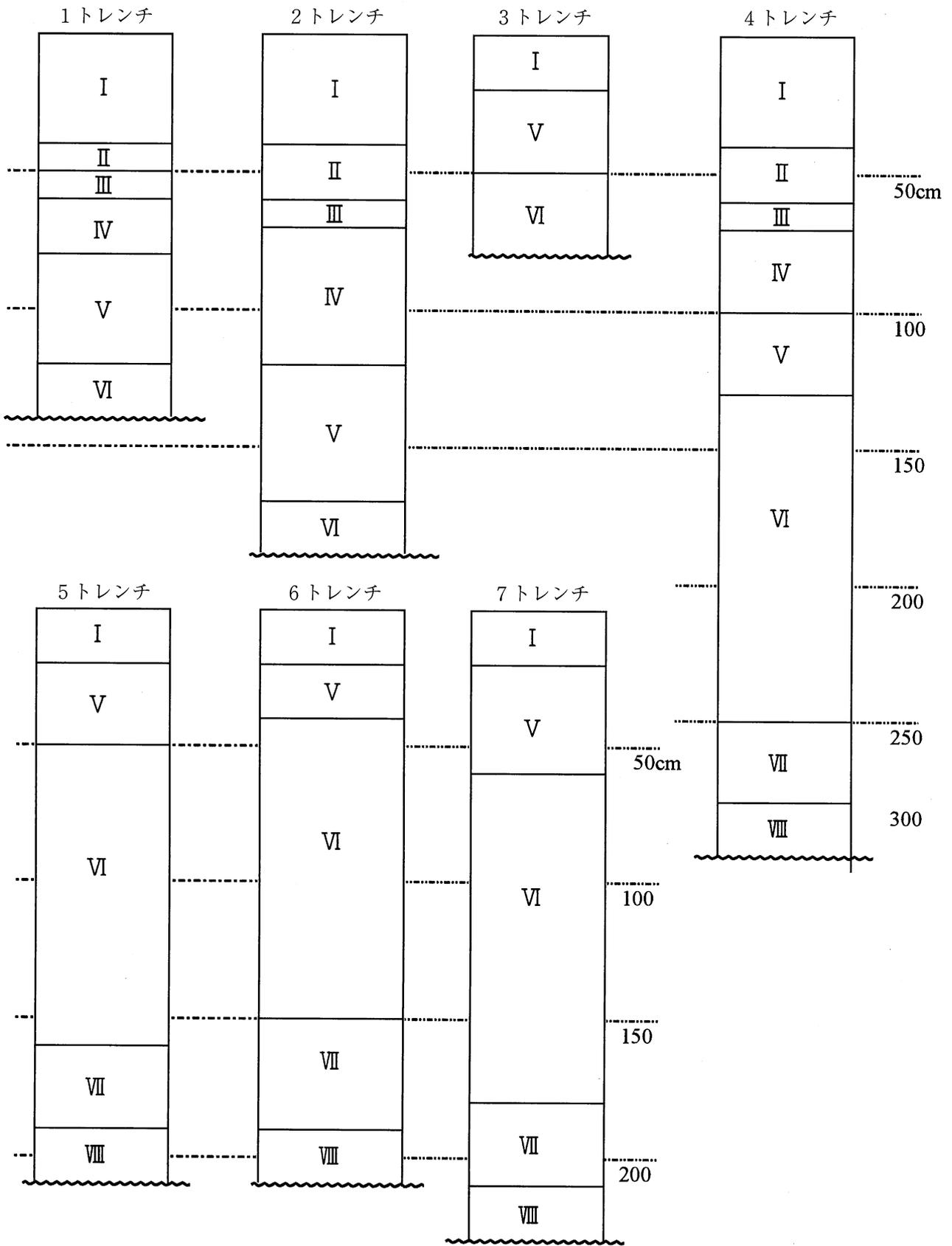


第35図 位置図

原	現	測
---	---	---



第36図 トレンチ配置図



試掘・確認調査一覧

No.	事業地区名	遺跡名所在地	調査機関	調査担当	備考
1	県営農地保全整備事業 船引地区	上猪ノ原遺跡 清武町大字船引	平成13年4月19日～25日 平成13年6月7日～13日 平成13年8月16日～23日 平成14年3月7日～15日	松林 豊樹 松林 豊樹 松林 豊樹 松林 豊樹	
2	農用地総合整備事業	豊満大谷遺跡 都城市豊満町大字大谷	平成13年5月24日～31日	飯田 博之	
3	国営尾鈴土地改良事業 霧島・八方原・平下支 線水路	長岡原・銀座・藏座村・ 山本遺跡 川南町大字川南	平成13年8月1日～2日	松林 豊樹	
4	中山間地域総合整備事 業 弥五郎地区	周知外 山之口町大字富吉	平成13年8月27日～29日	飯田 博之	
5	国営尾鈴土地改良事業 切原ダム工事用道路	住吉B遺跡 川南町大字川南	平成13年9月26日～27日	松林 豊樹	
6	国営尾鈴土地改良事業 鶉戸ノ本ファームポ ンド	赤石遺跡 川南町大字川南	平成13年9月27日	松林 豊樹	
7	国営大淀川左岸農業水 利事業 垂水・蓮ヶ池ファーム ポンド	周知外 宮崎市大字瓜生野	平成13年11月8日	松林 豊樹	
8	農用地総合整備事業	宇都第3遺跡 三股町大字宮村	平成13年12月6日～11日	飯田 博之	
9	県営中山間地域総合整 備事業 宇納間地区(高鼻地区)	周知外 北郷村大字宇納間	平成13年12月18日～19日 平成14年3月13日～14日	竹井眞知子 飯田 博之	
10	県営農地保全整備事業 元野地区	本野原遺跡 田野町大字元野	平成14年1月8日～28日	松林 豊樹	
11	県営農地保全整備事業 七野・八重地区	片井野第1遺跡 田野町大字七野	平成14年1月25日～28日	松林 豊樹	
12	県営農地保全整備事業 横市地区	星原遺跡、周知外 都城市南横市町、志比 田町	平成13年12月19日～20日 平成14年2月20日～25日	飯田 博之 飯田 博之	
13	県営農地保全整備事業 北岡松地区	岡松遺跡 えびの市大字岡松	平成14年3月5日～8日	飯田 博之	
14	県営中山間地域総合整 備事業 百済の里地区(小又地 区)	小又遺跡 南郷村大字水清谷	平成14年3月12日～14日	竹井眞知子	
15	農用地総合整備事業	鶉尾遺跡 都城市今町	平成14年3月18日～20日	飯田 博之	
16	県営農地保全整備事業 下水流2期地区	築池地下式横穴墓群 都城市水流町	平成14年3月22日	飯田 博之	地下レー ダー探査

**平成13年度農業基盤整備事業
に伴う発掘調査概要報告書**

平成14年3月30日

編集：宮崎県文化課 宮崎市橘通1-9-10
TEL.0985(26)7251

発行：宮崎県教育委員会

印刷：(有)河野印刷

宮崎県延岡市川原崎町453
TEL.0982(33)2249